



当社のホームページの「CSR活動」を選択していただくと、当社が発行した「CSRレポート」をご覧になれます。  
ご意見、ご要望等は、下記にご連絡ください。

お問い合わせ先 **株式会社クレハ** CSRレポート編集連絡会(RC部)  
〒103-8552 東京都中央区日本橋浜町3-3-2  
TEL:03-3249-4686 FAX:03-3249-4709  
<http://www.kureha.co.jp/>



IPA（イソプロピルアルコール）などの有害物質を含む「湿し水」を使わない水なし印刷を採用し、VOCの発生を大幅に削減しています。



植物油溶剤のインキを使用しています。



適切に管理された森林で生産された木材を原料に含む「FSC™認証紙」を使用しています。



読みやすい、モリサワ UD（ユニバーサルデザイン）フォントを本文に使用しています。

株式会社 **クレハ**

## ご挨拶

はじめに、このたびの東日本大震災において被災されました皆様に、心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

さて、2010年度の化学工業は、中国等アジア向けの輸出、電機・電子関連の需要回復により、設備稼働率は高水準を維持していましたが、海浜部に生産拠点を有する化学会社は3月11日に発生した東日本大震災の直接的影響を大きく受け、操業停止に至る事態も少なからず生じています。

当社グループのマザー工場であるいわき事業所は3月11日の地震によって、設備の一部に被害が発生し、一時、操業を停止いたしました。さらに、4月11日と12日に発生したいわき市南部を震源とする余震（マグニチュード7.0、震度6弱）により、設備の一部に再度被害が発生しました。しかし、致命的なプラントの損傷はなく、地震発生後、順次復旧し、6月には全プラントが正常操業に至りました。

一方で、当社は2010年7月1日に、「NEWクレラップ」および業務用食品包装材の開発、製造、販売の一元管理体制を構築し、経営資源の効率的な活用による事業基盤の一層の強化を図るため、当社の連結子会社であるクレハプラスチック株式会社を吸収合併いたしました。

当社グループは、“人と自然を大切にします。”“常に変革を行い成長し続けます。”“価値ある商品を創出して、社会の発展に貢献します。”という企業理念に基づき活動し、“エクセレント・カンパニー”を目指し挑戦し続けています。また、“クレハグループ倫理憲章”を定め、コンプライアンス（法令及び社会的規範の遵守）を重視し、公正で自由な競争に基づく事業活動、正確で有用な情報の適時、適切な開示、地域社会への積極的な貢献、地球環境の保護などにも当社グループをあげて取り組んでいます。また、当社グループは化学製造業を中核事業として、製造物に関するリスク、製造行為に係るリスクを強く認識し、レスポンシブル・ケア活動（環境保全、保安防災等に関する自主的管理活動）への継続的な取り組みに注力しています。特に、主要製品の製造が生産本部いわき事業所に集中していることによるリスクを意識し、当事業所を中心に環境保全や安全確

保に関する取り組みを不断に進めています。具体的には、環境マネジメントシステム、品質マネジメントシステム、労働安全衛生マネジメントシステムを活用し、継続的なRC活動を行っています。

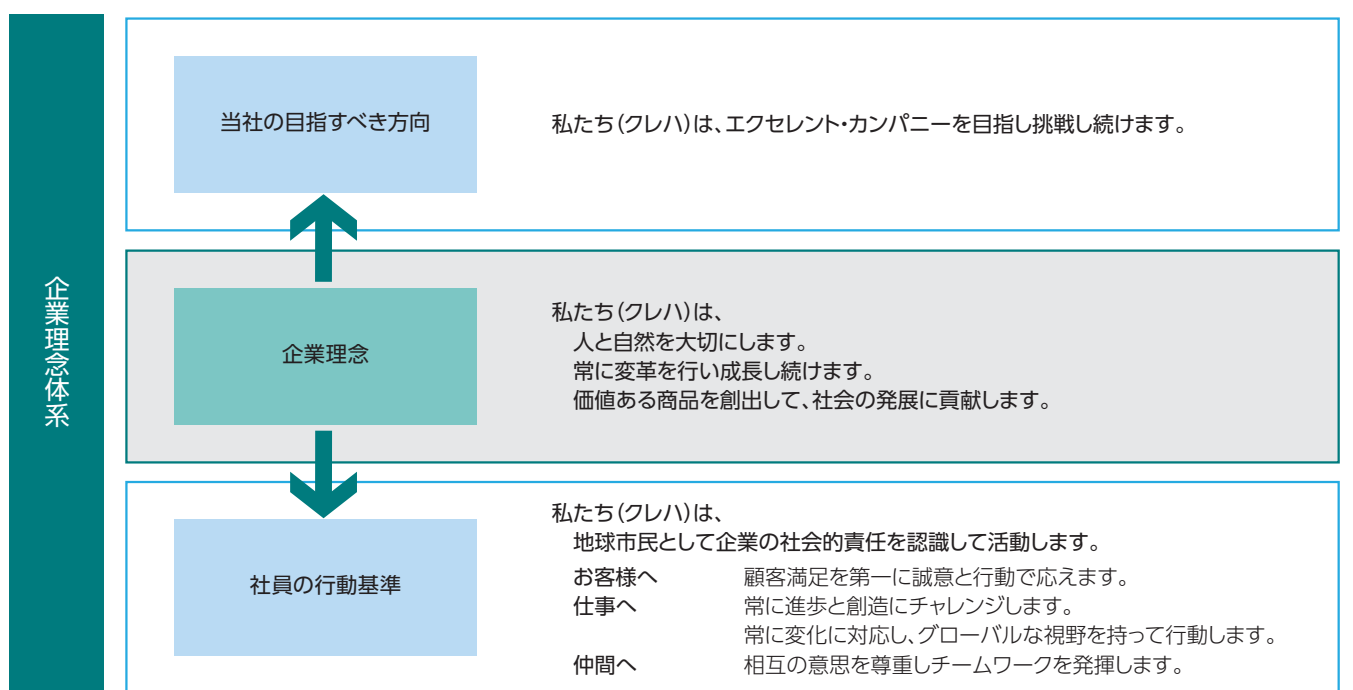
当社グループにおいて、このたびの大震災でも大きな人的な損害がなかったことは幸いでありましたが、当社の企業理念に基づいて、CSR活動の一環として続けてきた保安防災に対する取り組みや労働安全衛生マネジメントシステムが功を奏したものと考えています。

「CSRレポート2011」は、2011年3月までの当社グループの活動状況をまとめたものです。今年からは、海外グループ会社のCSR活動についても掲載を始めました。本レポートをご覧いただき、皆様のご理解を賜るとともに、今後のCSR活動に向けて忌憚のない御意見をいただければ幸いに存じます。



代表取締役社長

岩崎隆夫



## 目次

## 企業基盤

## 社会性報告

## レスポンシブル・ケア報告

## グループ会社の活動

■ご挨拶	2
■コーポレート・ガバナンス	3
ガバナンス体制	
内部統制システム	
■コンプライアンス	4
コンプライアンスの実践	
■情報管理	5
基幹システムの安全稼動	
情報漏洩防止対策	
情報セキュリティリスクアセスメントの継続実施	
■リスク管理	5
リスク・マネジメント	
本社防災ハンドブック	
■株主・投資家に対する取り組み	6
情報開示の考え方	
株主とのコミュニケーション	
投資家・アナリストとのコミュニケーション	
■お客様に対する取り組み	7
■取引先に対する取り組み	8
購買基本方針	
CSR調達基準	
■従業員に対する取り組み	9
社員へのコミットメント	
人事制度	
教育制度	
働きやすい環境づくり	
■地域社会とのコミュニケーションに対する取り組み	10
リスクコミュニケーション	
地域との共生	
■社会貢献に対する取り組み	12
社会貢献	
■レスポンシブル・ケア(RC)活動の概要	13
RC実施宣言	
RC取り組み体制	
RCマネジメントシステム	
マネジメントシステムの認証取得状況	
RC活動の総括表	
■環境会計	16
環境会計	
■環境負荷の低減に対する取り組み	17
環境負荷の全体像	
地球温暖化防止	
大気汚染防止	
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)	
水質汚濁防止	
容器包装リサイクル法	
産業廃棄物の排出量削減とリサイクル	
環境保全対策投資	
■保安防災に対する取り組み	23
保安防災	
■労働安全衛生に対する取り組み	25
労働安全衛生	
技能研修センター	
保安防災・労働安全衛生対策投資	
■製品安全・品質保証に対する取り組み	27
品質方針	
製品安全・品質保証	
クレハ・パワーファイブ	
■物流の環境負荷低減および物流安全に対する取り組み	28
物流段階での環境負荷低減	
物流事故対策	
■環境に配慮した製品に対する取り組み	29
■グループ会社の活動	31
クレハ エクステック株式会社	
クレハ合繊株式会社	
クレハ運輸株式会社	
クレハ錦建設株式会社	
株式会社クレハエンジニアリング	
株式会社クレハ環境	
株式会社クレハ分析センター	
レジナス化成株式会社	
日本エクストロン株式会社	
Krehalon Industrie B.V.	
上海呉羽化学有限公司	
Kureha Advanced Materials LLC.	

## 事業内容

クレハグループは、機能製品、化学製品、樹脂製品の製造・販売をその主な事業内容とし、さらに各事業に関連する設備の建設・補修、物流、環境対策およびその他のサービス等の事業活動を行っています。当社の製品は、電気・電子分野、自動車の素材等として使用される機能樹脂から、家庭で使用される家庭用ラップ、また抗悪性腫瘍剤、慢性腎不全用剤といった医薬品まで、幅広く人々の生活に関わっています。

## 会社概要

- 創 立 1944年(昭和19年)6月
- 資本金 124億6千万円
- 売上高 1,323億円(連結) 832億円(単独)  
(2010年度)
- 主要事業 機能樹脂／炭素製品／電池材料／  
工業薬品／医薬品／農業／食品包装材／  
家庭用品／建設／環境／物流
- 従業員 4,078人(連結) 1,626人(単独)  
(2011年3月31日現在)
- 営業所／事業所／研究所  
営業所 本社(東京都中央区)  
大阪支店  
仙台営業所  
名古屋営業所  
福岡営業所  
事業所 いわき事業所  
(福島県いわき市)  
樹脂加工事業所  
(茨城県小美玉市および兵庫県丹波市)  
研究所 総合研究所、農業研究所、  
新材料研究所  
(福島県いわき市)  
PGA研究所、加工技術センター  
(茨城県小美玉市)  
生物医学研究所  
(東京都新宿区)
- グループ会社  
連結子会社32社(国内21社、海外11社)  
(2011年3月31日現在)

## 本報告書の対象範囲

本報告書は、当社の2010年度のCSR活動を中心に、当社とともに活動を行っている下記グループ会社12社(国内9社、海外3社)の活動についても記載しています。

- クレハ エクステック(株)
- クレハ合繊(株)
- クレハ運輸(株)
- クレハ合繊(株)
- (株)クレハエンジニアリング
- (株)クレハ環境
- (株)クレハ分析センター
- レジナス化成(株)
- 日本エクストロン(株)
- Krehalon Industrie B.V.
- 上海呉羽化学有限公司
- Kureha Advanced Materials LLC.

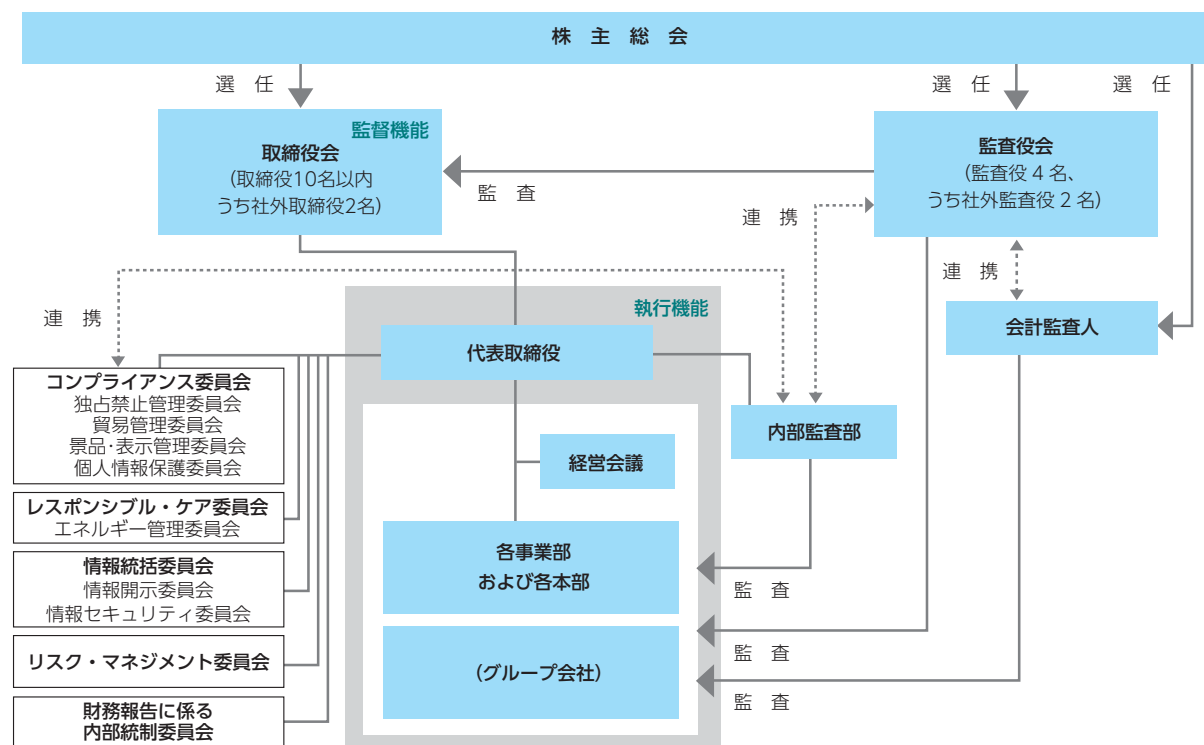


## コーポレート・ガバナンス

当社は、経営の透明性を高めステークホルダーとの信頼関係を確保するとともに、企業としての持続的な成長を図るため、コーポレート・ガバナンスの充実に努めています。

### ガバナンス体制

当社は、コーポレート・ガバナンスの強化および当社グループの経営における意思決定や業務執行の迅速化を図るため、経営の監督責任と執行責任を明確に分離しています。



#### 【各組織の役割の説明】

- ・取締役会は、経営陣から独立している社外取締役2名を含む10名以内の取締役で構成しています。取締役会では重要な経営事項の決定と業務執行の監督を行っています。
- ・経営会議は、代表取締役社長および代表取締役社長が指名する執行役員で構成しています。経営会議では中長期経営戦略および基本方針等について審議しています。また、連結経営会議では、当社グループの基本的な運営方針等の意見交換を行い、連結経営の強化を図っています。

- ・監査役会は、社外監査役2名を含む4名の監査役で構成しています。監査役は取締役会、経営会議および連結経営会議に出席し必要に応じて意見を述べるとともに、業務執行に対する監査を行っています。また、監査役は、会計監査人および内部監査部との間で監査計画や監査状況について意見交換を行うなど、相互に連携を図っています。
- ・代表取締役社長直轄の内部監査部は、会社の内部管理体制等の適切性や有効性を評価し改善の指摘等を行うことにより、経営効率および社会的信頼度の向上に寄与する体制をとっています。

### 内部統制システム

内部統制システムの基本方針を制定し、当社グループが業務遂行にあたり、法令を遵守し、業務を適正に遂行する体制を確保するよう、各種委員会の設置や社内規程の整備を進めています。

「財務報告に係る内部統制」に関しましても「基本規程」を制定し、金融商品取引法に定められた「財務報告に係る内部統制の有効性に関する経営者による評価および公認会計士等による監査」を実施し、財務報告の信頼性の確保を図り、経営者(代表取締役)の責任の下、「内部統制報告書」を作成しています。

## コンプライアンス

### コンプライアンスの実践

当社は、コンプライアンス体制として「クレハグループ倫理憲章」および「コンプライアンス規程」を定め、コンプライアンス重視の企業風土を徹底すべく体制のより一層の強化を図っています。

また、法令等に反する行為を早期に発見するために、社内および社外(弁護士)にホットライン(コンプライアンス相談・通報窓口)を設置し、法令および社会的規範の遵守に努めています。

さらに、他部門から独立した代表取締役社長直轄の内部監査部がコンプライアンスやリスク管理体制を含む社内の内部管理体制等の適切性や有効性を評価検証し、これに基づき改善に関する指摘・提言を行うことにより、社会的信頼度の向上に寄与する体制をとっています。

- ・コンプライアンス規程
- ・コンプライアンス委員会
- ・相談窓口(ホットライン)
- ・確認・検証

#### 組織・体制

#### 行動基準

- ・クレハコンプライアンス行動基準
- ・解説書

#### クレハグループ倫理憲章

#### コンプライアンス教育

- ・導入教育
- ・継続教育
- ・新入社員教育
- ・その他

#### 2010年度

#### コンプライアンス教育・啓蒙のための取り組み

- 新規採用従業員を対象とするコンプライアンス導入・継続教育
- 新規採用従業員・幹部社員昇進者等を対象とするインターネットを利用したeラーニング
- 一般社員を対象とするビデオドラマを利用した事例教育
- 幹部社員を対象とする外部講師講演ビデオによる教育
- 従業員意識調査の実施(2007年度に続く2回目)
- コンプライアンス行動基準解説書の改訂



## クレハグループ倫理憲章

私達は、次の8原則に基づき、国内外の法律、社会的規範及びその精神を遵守するとともに社会的良識をもって行動します。

経営トップは、この「倫理憲章」の精神の実現が自らの役割であると認識し、その周知徹底を行うとともに、これに反する事態が発生したときは、自ら問題解決、原因究明、再発防止に努め、社会への適時、適切な情報公開を行い、自らも含めて厳正な処置を行います。また、社員一人一人は日常の生活において自主的、積極的にこれらの精神を実現します。

1. 私達は、社会のニーズに応える社会的に有用で安全な製品、サービスを開発・提供します。
2. 私達は、地球環境の保護、人の安全と健康の確保に自主的かつ積極的に取り組みます。
3. 私達は、広く社会との対話を大切にし、正確で有用な企業情報を適時、適切に提供します。
4. 私達は、地域社会を尊重し、その発展に積極的に貢献します。
5. 私達は、競争法規を遵守し、公正で自由な競争を行います。
6. 私達は、政治、行政と透明で健全な関係を保ちます。
7. 私達は、社会的良識を備えた善良な企業市民(コーポレート・シチズン)として行動します。
8. 私達は、一人一人が互いの人格、個性を尊重し、ゆとりと豊かさを実現できる企業をつくります。



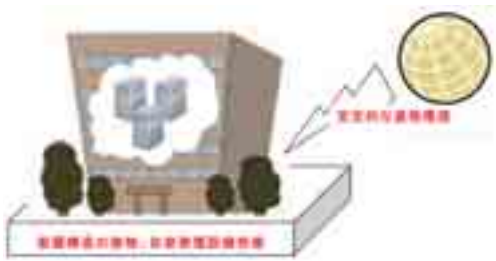
# 情報管理／リスク管理

## 情報管理

### 基幹システムの安定稼働

2011年1月に、いわき事業所内に設置していたサーバを外部のデータセンタにハウジングしました。この対応により、東日本大震災発生時にも基幹システムは停止することなく、業務を遂行することができました。

2011年度は、より安定的なシステム運用を目指し、さらに改善を図ります。



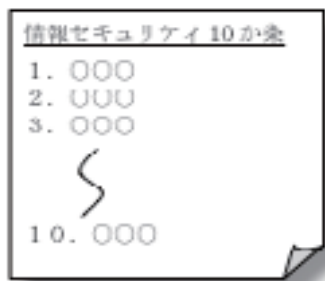
### 情報漏洩防止対策

情報漏洩防止対策として、電子メールジャーナルアーカイブ（外部送信メールの自動保存）とUSBメモリ等の外部記憶媒体使用規制を、国内グループ会社まで展開しました。

### 情報セキュリティリスクアセスメントの継続実施

情報セキュリティリスクアセスメントについて、当社および国内外グループ会社を対象に、「当年度リスク対応実施報告」→「リスク分析」→「翌年度リスク対応計画策定」を継続的に行いました。

また、情報セキュリティ委員会策定の「情報セキュリティ10か条」に基づいた情報セキュリティ監査を実施しています。



## リスク管理

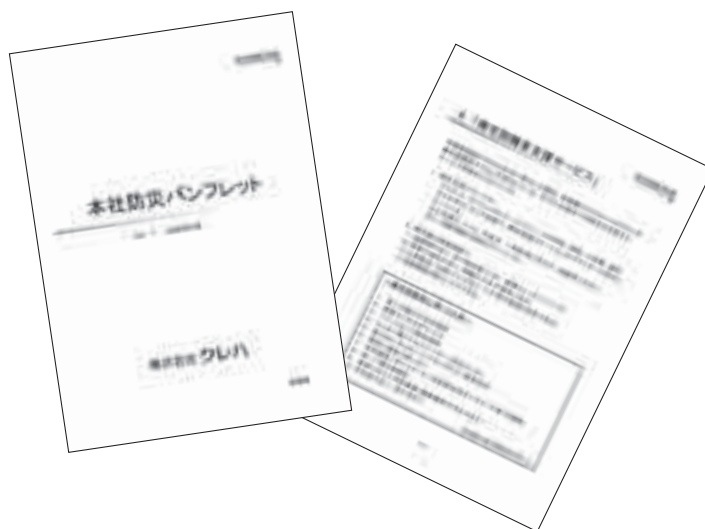
### リスク・マネジメント

クレハは、「内部統制システムの基本方針」に基づき、事業活動に伴い発生するリスクを分類し、リスク・マネジメント委員会、レスポンシブル・ケア委員会、情報統括委員会の各委員会がリスク管理を行う体制をとっています。各委員会は当該リスクを認識し、回避、軽減を図るための具体的な対策について社長に提言し、職制を通じて実行しています。

また、3月11日に発生しました東日本大震災時には、「非常事態対応規程」に基づき直ちに対策本部を設置して、従業員全員の安全を確保するとともに、オールクレハ丸となって復旧・復興に向けて活動しました。

### 本社防災ハンドブック

クレハ本社では、東海地震や首都圏直下型地震の発生を想定して、2008年9月に防災ハンドブックを改訂しました。このハンドブックは地震に対する事前準備やオフィス内や外出中に地震が発生した時取るべく行動をまとめたもので、安否確認や緊急連絡方法のほか、地下鉄に乗車している時や車の運転中など「こんな場所での地震!どうする?」といった様々なシチュエーションにあわせた行動を掲載し、防災に関する啓蒙を行っています。



# 株主・投資家に対する取り組み

## 情報開示の考え方

当社は、「情報開示基本方針」に基づき、社会から信頼され支持される企業を目指し情報開示を行うことを基本におき、関係法令や証券取引所の定める「適時開示規則」等に則って、適時・適切に情報開示を行います。また、法令・規則等に拠らずステークホルダーに有用な情報と判断した場合においても、適時・適切に情報開示を行います。

公平かつ継続的に情報を開示していくことが、経営の透明性とステークホルダーからの信頼を高めることにつながるものと考えています。

## 株主とのコミュニケーション

当社は、定時株主総会を毎年6月下旬に開催しています。招集通知の発送を6月初旬に行い、株主の皆様の議案の検討に必要な時間を確保しています。議決権行使にあたっては、インターネットによる行使の選択も可能としています。

株主総会では、映像の活用といった工夫をするとともに、ご質問に対しては率直かつ丁寧な説明に努めています。株主総会終了後、株主の皆様とのコミュニケーションが図れる懇談の場を設けています。

また、半期に一度、当社の決算概要やトピックスなどをまとめた「クレハ レポート」を株主の皆様にお届けし、当社現況への理解促進を図っています。



## 投資家・アナリストとのコミュニケーション

通期決算および第2四半期決算の発表後、機関投資家や証券アナリストを対象とした決算説明会を開催しています。決算や将来への見通し、重点事業の進捗状況などについて説明し、当社の持続的な成長に向けたシナリオを伝えています。

さらに理解を深めていただくために、国内外の投資家との個別取材対応など、積極的な対話に取り組んでいます。

また、株主や投資家の皆様の情報入手と理解をサポートできるよう、当社ウェブサイトのコンテンツの充実を図るとともに、サイト内にメールによる「IRお問い合わせ」窓口も設置しています。



決算説明会の様子



IRサイト



## お客様に対する取り組み

お客様相談室では、NEWクレラップやキチントさん、シーガー等の釣り糸製品のクレーム・ご要望・お問い合わせの対応をしています。お寄せいただきました全クレームの約95%は、当日中にお客様対応を完了させています。残り5%は詳細なクレーム発生原因の調査を必要とするものであり、製造原因と判明した場合は再発防止策を含めてお客様にご報告しています。



NEWクレラップ

また、クレーム対応したお客様の約14%からお礼や激励などのメッセージをいただいています。

一方、頂戴したクレームやご要望は、お客様相談室とリビング用品開発部他の関係部署で評価し、製造工程の改善や製品改良、製品情報の告知方法の見直しに活用しています。



### 商品改良に対する社外の評価

当社の家庭用品の主力製品である NEW クレラップは、グッドデザイン賞等、海外での受賞を含めて数多くの賞をいただいています。

- ・グッドデザイン賞（2004、2006～2010年）、ロングライフデザイン賞（2009年）
- ・日本パッケージコンテスト受賞（2004年～2009年の6年連続）
- ・香港デザインセンター主催の「アジアデザイン大賞、銅賞」（2010年）
- ・アジア包装連盟主催の「アジアスター賞」（2007、2009年）
- ・世界包装機構主催の「ワールドスター賞」（2009年）

NEW クレラップは、2004年から8年連続でリニューアルを実施しています。2010年のグッドデザイン賞の審査員コメントとして「これ以上は進化しないだろうという境界線を毎年ブレイクスルーして次のステージに上がってくる企業姿勢には敬服する。今回も人間工学的な配慮が施され、カットのしやすい握り方が可能な新規箱形状が見事である。」とご評価をいただいています。

また、2009年には経済産業省の主催する「製品安全対策優良企業優良賞」を受賞しました。「お客様視点の製品の開発姿勢と実践」や「事故予防といった安全面での改善」が、企業全体に定着しているとして評価されたものです。「いちばんうれしいラップになろう。」をキーコンセプトに、今後も商品改良を続けてまいります。



グッドデザイン・  
ロングライフデザイン賞



アジア  
デザイン大賞



アジアスター賞



ワールドスター賞



2009  
製品安全対策優良企業

## 取引先に対する取り組み

当社購買部門は以下の購買基本方針とCSR調達基準に基づいてCSR活動に取り組んでいます。

### 購買基本方針

当社購買部門はCSRの取り組みの一環として以下の方針に基づいて購買業務を遂行します。

1. 取引先の選定に際しては、品質、価格、供給安定性、アフターサービス、技術力を総合的に判断し、公正に経済合理性に基づいて行います
2. 取引先の選定にあたり、既存の取引先や過去の実績にとらわれず、広く窓口を開放します
3. 購買取引において、関連する法令を遵守します
4. 取引先と対等で公正な協力関係を築き、相互の理解と信頼関係の向上を目指します
5. 取引先と連携し購買品の品質の維持・向上に努めます
6. 環境保護に配慮した購買活動を行います



### CSR調達基準

当社購買部門は以下のCSR調達基準を満たす取引先との連携により、CSRへの取り組みをサプライチェーン全体で推進し企業価値向上を目指します。

- 1 人権・労働
  - ・基本的人権を尊重する
  - ・従業員の処遇・雇用等で、不当な差別を行わない
- 2 安全衛生
  - ・危険・有害要因を特定し適切な対策を取る
  - ・緊急時の対応策を策定し、周知徹底を図る
- 3 環境
  - ・環境負荷の少ない原材料・部品の使用に努める
  - ・指定された化学物質の適切な管理を行う
  - ・産業廃棄物の処理を適切に行う
- 4 公正取引
  - ・不適切な利益の供与や受領を行わない
  - ・優位的地位を濫用し不利益を与える行為をしない
  - ・製品・サービス・取引方法に関する正確な情報を提供する
  - ・事業活動に適用される法令・社会規範・社内規程を遵守する
- 5 品質・安全性
  - ・品質マネジメントシステムを構築し運用する
- 6 情報セキュリティ
  - ・機密情報や個人情報を適切に管理する
- 7 社会貢献
  - ・国際社会・地域社会の発展に貢献できる活動を行う

### 主な取り組み

当社は、環境保全活動を重要な課題の一つとして位置付け、レスポンシブル・ケア活動に取り組んでいます。グリーン調達という観点にたち、より安全で環境負荷の低い製品・原材料の使用を進めるため、当社の定める「グリーン調達ガイドライン」に基づき、原材料の調達を行っています。



# 従業員に対する取り組み

## 社員へのコミットメント

「企業理念」の実現のために、「社員の行動基準」に基づいて、会社から社員に対する約束を「社員へのコミットメント」として成文化しています。

1. 社員の先頭に立って行動します。
2. 変革を恐れず新しい可能性に取り組みます。
3. 社員一人一人を尊重します。  
そのためには：
  - ・情報の共有化を図り、経営方針を明確に打ち出します。
  - ・公正で透明性のある評価を実施します。
  - ・個人の能力を最大限に発揮する機会を提供します。

上記は、会社から社員への「コミットメント」であると同時に社員自らが会社の一翼を担うという自覚の下に責任ある行動をとる、という社員自らに対する「コミットメント」でもありと考えています。

## 人事制度

「経営目標の早期達成のための人財開発と企業風土の変革」を基本目標に掲げ、役割と責任を明確にした制度に基づき、上司との面談を通じた各人の目標の明確化や、能力開発ポイントの明示など、人財開発・人財活用を積極的に行っています。

## 教育制度

各人の役割、職務、ライフステージに応じた、役割別研修、職種別研修、キャリアセミナー、新入社員研修、社内論文制度、語学研修、各種講習会への派遣等を通し、多方面にわたって各人の能力を引き出し、人財の育成に努めています。

## 働きやすい環境づくり

仕事と家庭の両立を支援するため2009年1月に労働環境の整備を行い、従業員の育児や介護を支援するべく関連諸制度を見直し、改善しました。

現行の制度としては、育児休業(子が2歳に達するまで)、育児短時間勤務(子が小学校就学の始期に達する日まで)、介護休業(通算1年以内)、介護短時間勤務(通算2年以内)などがあります。

今後も引き続き働きやすい労働環境づくりに努めていきます。



新入社員研修



キャリアセミナー

# 地域社会とのコミュニケーションに対する取り組み

「地域との共生」をテーマに、従業員および地域の方々と互いに良好なコミュニケーションを保ちながら、その基盤の上になつて地域社会の発展に貢献できるよう取り組んでいます。

## リスクコミュニケーション

### 第8回CSR地域対話集会

2010年12月に行政機関、地域団体、地区役員、近隣企業の方々、クレハグループ関係者を含め123名の参加をいただき、第8回CSR地域対話集会を開催いたしました。

今回は、2009年度までのレスポンシブル・ケアからCSR(コーポレート・ソーシャル・レスポンシビリティ)と名称を変更し、いわき事業所と(株)クレハ分析センターが発表を行いました。いわき事業所は、安全文化構築に向けた取り組みについて「トップの関与」、「安全な人づくり」、「設備の本質安全化」、「作業環境の整備」、「危険の排除」という項目に分けて紹介しました。

(株)クレハ分析センターは、生活環境と人々の健康を守る分析について「理化学分析」、「環境分析」、「生態影響試験」、「農薬分析」、「骨検査」、「環境アセスメント」の業務内容の紹介をしました。

また、福島県環境センター企画管理課より「地域と企業の環境コミュニケーション」についてご講話をいただきました。

クレハグループとして地域との共生を維持するとともに、社会から一層の信用を得られるようCSR活動の取り組みを強化することを約束しました。



CSR地域対話集会(2010年12月)

## 双方向のコミュニケーション紙「にしき」の発行

いわき事業所から地域の方々への環境や安全に関わる取り組み等の情報、および地域の方々の意見・要望などを相互に紹介するため、双方向のコミュニケーション紙「にしき」を発行しています。

第24号では、いわき市が共催した事業「いわきフラオンパーク」に参加協力し、事業所見学を開催した様子を掲載、第25号では、2010年度で第10回目を迎えたスポーツフェスティバルの様子を掲載いたしました。



第25号「にしき」

第24号:2010年5月20日 発行  
●いわきフラオンパーク ～クレハで新たな発見!～  
●製品安全・品質保証に対する取り組み

第25号:2010年10月30日 発行  
●第10回スポーツフェスティバル(記念大会)  
●CSR(企業の社会的責任)について

第26号:2011年1月20日 発行  
●第8回「CSR地域対話集会」  
●いわき事業所「総合防災訓練」



## 地域との共生

### 事業所見学

いわき事業所をもっとよく理解していただくために、近隣の方々を中心に積極的に見学を受け入れ、2010年度は38件、1,130人の方々に見学いただきました。残念ながら東日本大震災の影響で2011年3月11日以降の見学は中止となりましたが、2000年度からの累計では13,000人以上の方々に見学いただいています。

毎年恒例の「ツークレハ」は、小中学校の夏休み期間を利用し、従業員家族を招待して行う事業所見学で、2010年度は10家族が参加されました。



従業員家族が訪れたいわき事業所長室での一コマ

### 清掃ボランティア

いわき事業所の排水を放流する「蛭田川」の堤防の美化活動の他、「いわきのまちをきれいにする市民総ぐるみ運動」にあわせ6月と10月の年2回、事業所の周囲約4kmにわたって国道・県道・市道の美化活動（除草・ゴミ拾い）を行っています。この活動は二十数年前から毎年行っています。

2010年度は、延べ1,241人の従業員が参加しました。



いわき事業所周囲の清掃ボランティア

### 第10回オールクレハ・スポーツフェスティバル

クレハグループ各社の従業員とその家族の親睦および地域の皆さんとの交流を深める目的で開催されているこの大会は、2010年度で10回目を迎え、第10回記念イベントとして昼花火を打ち上げたり、特別記念賞品を加えるなど大会を盛り上げました。近隣の自治会・商店会の皆さん、なこそ授産所・子どもの家保育園の皆さん、オールクレハOB会の皆さん、勿来地区小・中学校のリレー選手の皆さんを招待し、過去最高の1,950人が参加して秋の空に大きな歓声が響きました。



オールクレハ・スポーツフェスティバル

### 産業祭

いわき市主催の「産業祭」が11月6日～7日に開催されました。いわきの産業を広く紹介・宣伝することにより、地場産業および製品の振興発展と市民生活の向上に寄与することを目的に開催され、2010年度は57団体が参加しました。

当社ブースでは「NEWクレラップ」や「キチントさんシリーズ」の家庭用品を紹介しました。NEWクレラップの正しい切り方などのデモンストレーションを行い、お客様に体験していただきました。



クレラップの正しい切り方を実演

# 社会貢献に対する取り組み

## 社会貢献

### 小学校理科授業

近隣の小学校3校の6年生を対象に、いわき事業所や総合研究所の従業員が講師を務める理科授業を行っています。2010年度は12年連続12回目を迎えました。

「水溶液の性質についての説明と実験」「液体窒素やドライアイスを使用した実験」のプログラムで行われ、液体窒素による凍結マシュマロ試食では大歓声があがりました。

今回の理科授業を受けた生徒は、一年前の5年生時には、いわき事業所の見学も行いました。



理科授業指導風景

### やまめの放流

「蛭田川とその周辺をきれいにする会」が主催する蛭田川の河川環境を守り、向上させる活動にいわき事業所も毎年協力しています。

「やまめの放流」は、2010年度で11回目を迎えました。この放流事業には、毎年近隣幼稚園の園児が参加し、2010年度もやまめの稚魚約1,000匹を蛭田川に放しました。

園児たちは生き物や自然に触れることで「自然環境を大切にすること」を肌で感じています。



やまめの放流

### 医療での社会貢献

呉羽総合病院は、当社の附属診療所として1944年に開設され、1972年に社団医療法人呉羽会「呉羽総合病院」として独立しました。現在では、いわき市南部の中核病院として広く県内外からの来院も増えています。

さらに、いわき市の福祉行政の一翼を担うため、介護老人保健施設「ガーデニア」を2008年3月に開設しました。医師による指導のもとで、看護および介護、そして専門スタッフによるリハビリテーションや日常のサービスを行っています。特に、隣接した呉羽総合病院による医療面でのサポートは、より安心かつ安全の高い医療サービスをご利用いただける大きな特徴です。医療と介護の両面から、「安心と安全」をモットーにした介護サービスの提供を心掛けてまいります。

また、東日本大震災の際は、市内の多くの病院・診療所が休診になっていた中、休むことなく診察を行い、さらには避難所への巡回診察も行いました。



介護老人保健施設「ガーデニア」



呉羽総合病院

### エコキャップ収集

クレハグループは2008年から独自にエコキャップ収集運動を展開しています。2008年から2010年まで約630キロ（約25万2千個）を収集しました。エコキャップはリサイクル業者をとおして換金され、ワクチンを購入し、発展途上国に贈られています。ポリオワクチンにして約315人分を贈呈しました。



エコキャップ収集運動



# レスポンシブル・ケア (RC) 活動の概要

## RC実施宣言

当社は、日本レスポンシブル・ケア協議会(JRCC)にその創設時から参加し、「化学物質の開発から生産・流通・廃棄に至る全ライフサイクルにわたって環境および人々の安全を確保する企業の自主活動」、すなわちレスポンシブル・ケア(RC)活動の実施を1995年4月社会に向けて宣言しました。

## RC取り組み体制

クレハグループのRC活動は、社長直轄のRC委員会を中心に推進しています。その委員長、副委員長および委員は、社長から任命されます。RC委員会のもとには特定の課題について対応策を立案する委員会が置かれています。

また、クレハグループ各社のRC活動を適切に推進するため、(株)クレハおよびRC宣言したグループ各社で構成するオールクレハRC協議会が設置され、その会長は、(株)クレハRC担当執行役員が受け持っています。協議会のもとに、環境保全、保安防災・労働安全、製品安全・品質保証および社会との対話の4つの分科会が置かれ、クレハグループのRCの課題について情報交換等を行っています。

RC委員会、およびオールクレハRC協議会の事務局は(株)クレハRC部内に置かれています。

## レスポンシブル・ケア実施宣言

当社および当社グループ各社は、地球環境の保全、人の安全と健康の確保は企業活動の根幹と考え、企業の社会的責任であるとの認識の下に、レスポンシブル・ケアの実施を宣言します。当社および当社のグループ各社は、次の「レスポンシブル・ケア方針」の下に、実施計画を策定し実行していきます。

この方針は、当社および当社のグループ各社の全てに共通に適用されるものです。

1995年4月20日

2002年7月1日・・・一部改訂

2005年10月1日・・・一部改訂

株式会社クレハ

## レスポンシブル・ケア方針

### ●国際規則や法令を守ります

私達は、保安防災、労働安全衛生、製品安全および地域生活環境を含む全地球的な環境の保全について、国際規則や国内の法令を守るとともに、日本化学工業協会が推進するレスポンシブル・ケア活動に積極的に参画します。

### ●地球環境に配慮し、安全な操業をします

私達は、事業活動において地球環境の保全に配慮し、操業においては従業員や市民の安全と健康を守り、事故、災害、公害を起こさないよう努力します。

### ●安全な製品を社会に提供します

私達は、社会の要求を素早く的確に把握し、製品作りに生かし、お客様が安心して使用でき、信頼していただける製品とサービスを提供していきます。

また、私達は、製品の研究・開発から生産・販売を経て廃棄に至るまでの全ライフサイクルにわたり、安全性、信頼性、環境への影響について配慮した製品とサービスを社会に提供します。

### ●環境・安全の情報を管理し、役立てます

私達は、製品の正しい取り扱いや処理方法、環境、保安、防災に関する適切な情報を集中管理し、消費者、ユーザーおよび製品納入に関連する企業等に提供します。

### ●社会とのより良い関係を築きます

私達は、行政当局や市民の関心に留意し、環境・安全情報を提供して社会に対して正確な広報活動を行い、また、市民社会の活動へも市民として積極的に参加し、社会とのより良い関係の維持と構築に努めます。

## RCマネジメントシステム

クレハグループでは、環境保全、保安防災、労働安全衛生、製品安全・品質保証、物流安全、エネルギー管理および地域との共生を一元化したRC活動を行っています。

また、グループ会社も含めたオールクレハRC活動として「オールクレハRC協議会」を設置し、一層のレベルアップを図っています。

当社では、環境マネジメントシステム(ISO14001:2004)、品質マネジメントシステム(ISO9001:2008)、労働安全衛生マネジメントシステム(OHSAS18001:2007)を活用し、すべてにおいてPDCA(Plan/計画、Do/実施、Check/点検・是正処置、Act/見直し)サイクルを回しながら継続的な改善活動を行っています。

## 環境マネジメントシステム

グループ各社は、地球環境保護を実践するため、環境マネジメントの国際規格であるISO14001の認証を受け、環境負荷物質の削減と限りある資源の有効利用を推進し、従業員一人ひとりの自覚を促しながら、積極的な活動に取り組んでいます。

## 品質マネジメントシステム

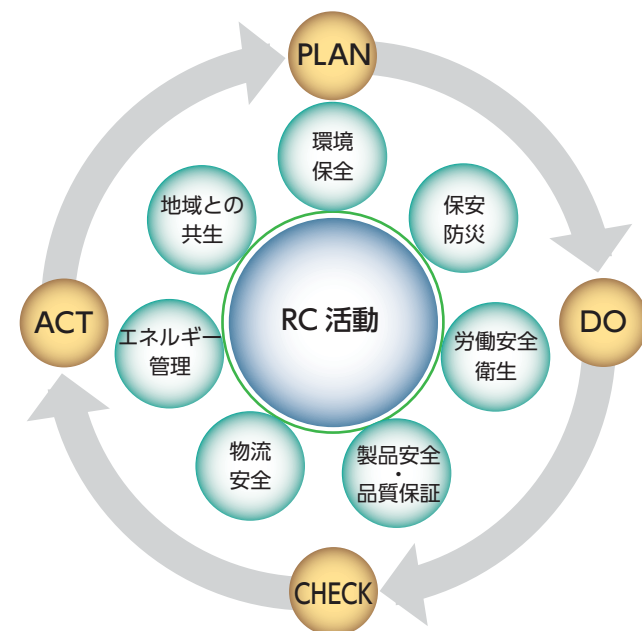
当社は、医薬品および健康食品を除くすべての製品について品質マネジメントの国際規格であるISO9001:2008の認証を受け、適正に運用し、お客様に一層満足していただけるよう安全な製品を提供し、安心してご使用いただくことに努めています。医薬品は薬事法等に定められた品質管理システムを運用し、安心していただける製品の提供に努めています。

グループ各社もISO9001の認証を受けています。

## マネジメントシステムの認証取得状況

グループ会社の各種マネジメントシステムの取得状況を一覧表にまとめました。

	環 境	品 質	労働安全衛生
クレハ エクステック株式会社	2007年3月	1999年2月	
クレハ合繊株式会社	2005年3月	2003年4月	2006年6月
クレハ運輸株式会社	2007年3月	2001年8月	
クレハ錦建設株式会社	2005年7月	2000年12月	2008年3月
株式会社クレハエンジニアリング	2004年12月	2002年4月	
株式会社クレハ環境	1998年3月		
株式会社クレハ分析センター	いわき事業所関連部署 2001年5月	いわき事業所関連部署 1996年2月	いわき事業所関連部署 2004年6月



## 労働安全衛生マネジメントシステム

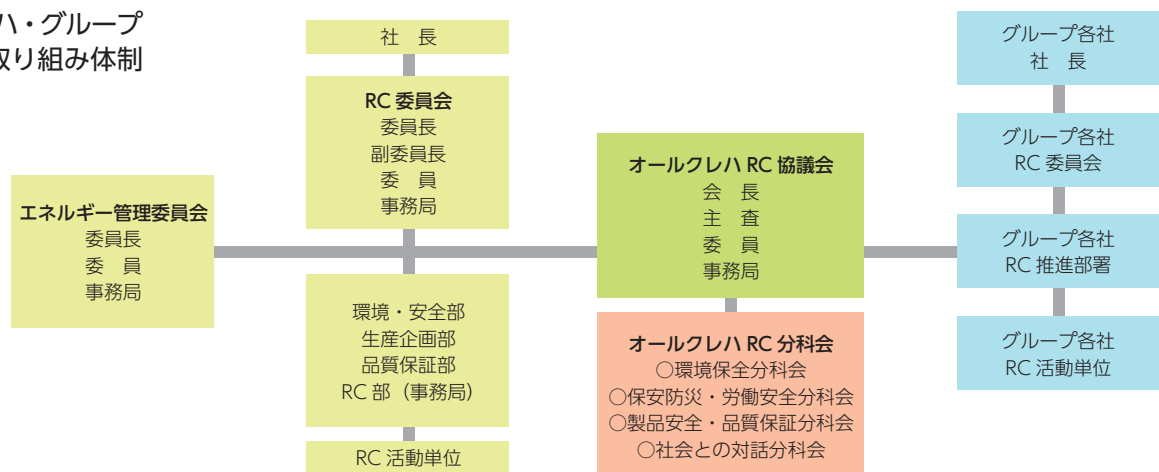
グループ各社は、事業活動に即した労働安全衛生マネジメントシステムの導入を積極的に推進し、働くすべての人たちの安全と健康を優先させ、『労働災害ゼロ』を目指した安全衛生活動を行っています。

## マネジメントシステム監査

環境と品質の国際規格、労働安全衛生マネジメントシステムに基づき、RC活動が適切に実施されていることを確認し、評価するための監査システムを整えています。

グループ各社は、年度方針を達成するための活動計画の進捗状況確認やシステムの運用、法令順守等のチェックを行い、業務活動の継続的改善に努めています。

## クレハ・グループ RC 取り組み体制





環境会計

RC 活動の総括表

目 的	目 標	2010年度計画	2010年度実績	自己評価 (※3)
全 般	RC活動の継続的改善	RCマネジメントシステムの活用と自部署の課題達成に向けた積極的な活動の実行	●QMS更新審査、EMS/OHSAS維持審査を受審、システムの維持を確認 ●社則、内規（業務標準）の見直し年度に伴い、最新版管理を実施	★★
環 境 保 全	化学物質の大気排出量削減	PRTR(※1)法対象物質の排出量削減	●PRTR法対象物質の増加や震災対応により、排出量は前年度より83%増加 ●排ガス燃焼設備の管理徹底を継続 ●新臭気対策設備は、設計レベルの臭気軽減効果を確認	★★
	排水品質の改善	総合排水の水質管理	●総合排水処理設備の安定運転を継続 ●各プラント出口での水質自主管理を継続 ●新設したポリマープラント排水処理設備の能力確認中	★★
	廃棄物処理の適正な管理	廃棄物中期削減計画の実行とリサイクルの推進	●廃棄物データシート内容の充実化、見直し継続 ●委託処分先6社の査察を実施 ●ペットボトル分別回収を開始	★★★★
保 安 防 災	重大設備事故ゼロ	各工場の安定運転連続250日以上を実現	●12プラントで連続安定運転を達成 ●設備の本質安全化の取組みを強化 ●防災訓練等で緊急時対応能力を向上	★★
労 働 安 全 衛	重大人身事故ゼロ	第1種事故ゼロ、第2および第3種事故5件以下(※2) リスク摘出項目の対策実施率60%	●第2種人身事故1件、第3種人身事故2件 ●リスク摘出項目に対する設備改善率は68%を達成 ●事故防止委員会で他社事故事例の水平展開を強化 ●連続無事故・無災害達成 14年間：生物医学研究所および加工技術センター、6年間：総合研究所	★★★★
品質保証・製品安全	顧客満足の向上	製品苦情・製品格別の対前年度比15%削減	●製品苦情は前年度より13%増加、製品格別は前年度より17%削減	★★
エネルギー管理	エネルギー削減	エネルギー使用量原単位1%/年削減	●全社のエネルギー使用量原単位指数(改正省エネ法)は前年度より10%削減 ●輸送エネルギー使用量原単位で前年度より1%削減	★★★★
地域との共生	社会から信頼される事業所	地域社会との共生とリスクコミュニケーション	●第8回CSR地域対話集会を(株)クレハ分析センターと共催 ●近隣小学校理科授業、ボランティア等地域貢献活動の実施	★★★★

(※1) PRTR 制度とは：事業所から排出したり、廃棄物として移動したりする化学物質の量を事業者が自ら集計し、都道府県を経由して国へ届ける制度  
(※2) 人身事故の区分：第1種人身事故とは死亡を含む重大人身事故を指し、第2種人身事故とは4日以上の休業、第3種人身事故とは1～3日の休業を指す。  
(※3) 自己評価：☆ 要努力； ☆☆ ほぼ達成； ☆☆☆ 良好

環境会計

当社は、効率的かつ効果的な環境保全対策の実施を目指しています。2010年度の環境会計として、環境省「環境会計ガイドライン2005年版」を参考に、事業活動における環境保全に係る経費および設備投資について、項目別に集計した金

額と主な取り組み内容および効果をまとめました。  
環境負荷は樹脂加工事業所の合併により増加しています。  
環境会計情報は、皆様に当社の環境保全への取り組み状況を理解し評価していただくための有効な手段と考えています。

集計範囲：株式会社クレハ 対象期間:2010年4月1日～2011年3月31日 [単位：百万円]

環境保全コスト			
分 類	経 費	投資額	主な取り組みの内容および効果
エリア内コスト	1,923	469	
内 訳	公害防止コスト	1,079	446
	地球環境保全コスト	81	18
	資源循環コスト	763	5
上・下流コスト	10	—	容器包装再商品化委託費
管理活動コスト	52	—	環境負荷監視、エリア内緑化、EMS構築・運用等 ●環境負荷監視のための測定 ●RCマネジメントシステムの維持 ●クレハグループ各社のRC活動推進 ●「CSRレポート 2010」の発行
研究開発コスト	1,243	—	環境配慮型製品・プロセス・物流各段階の研究・開発 ●グリーンプラスチックの開発 ●新規食品包装材・包装体の開発
社会活動コスト	7	—	地域住民に対する情報提供等、地域との共生 ●CSR地域対話集会開催 ●双方向コミュニケーション紙「にしき」の発行 ●地域清掃美化活動に参加
環境損傷対応コスト	30	—	廃棄物対応
総 計	3,265	469	

(※1) 2009 年度の原単位を 100 とした指数  
(※2) 1990 年度の原単位(日化協基準製品換算方式)を 100 とした指数



環境負荷の低減に対する取り組み

環境負荷の全体像

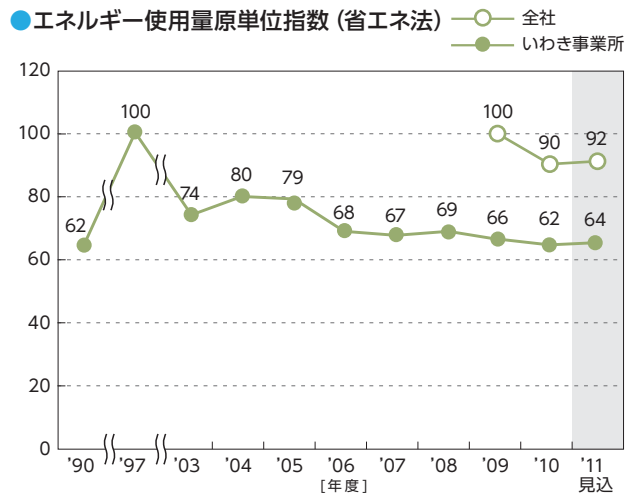
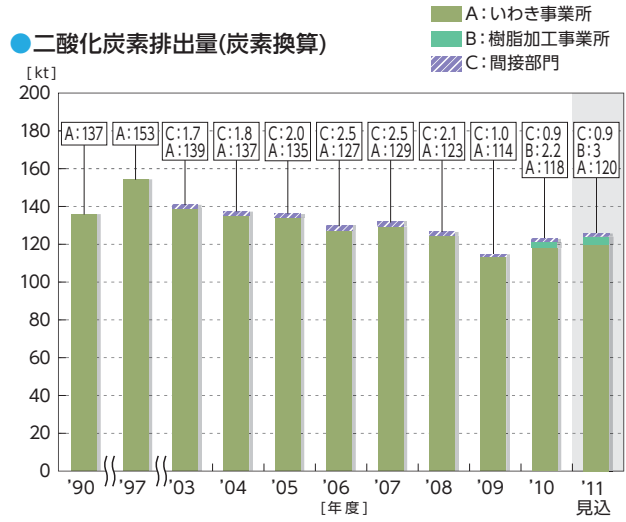
当社の事業活動全体における主要なインプット(資源投入)とアウトプット(製品と環境負荷)を整理しました。



地球温暖化防止

1997年12月の「気候変動枠組条約の第3回締約国会議(COP3)」で採択された京都議定書が2005年2月に正式に発効しました。地球温暖化を促進する温室効果ガスとして二酸化炭素、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン、パーフルオロカーボン、六フッ化硫黄、メタンの6種類が指定されました。当社では二酸化炭素が対象となっています。

京都議定書の基準年である1990年度と比較して、2010年

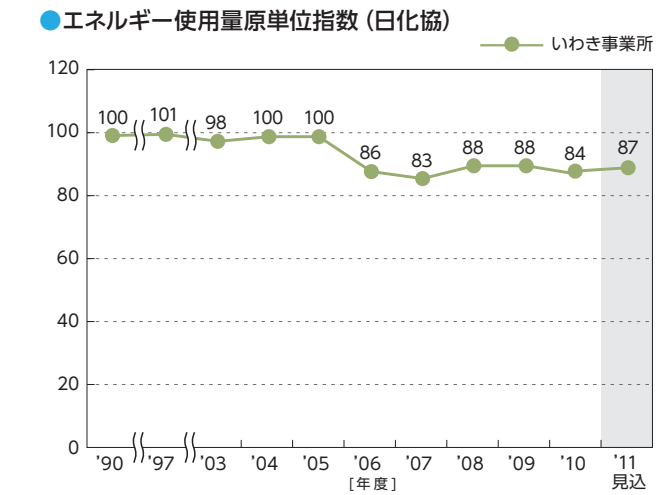
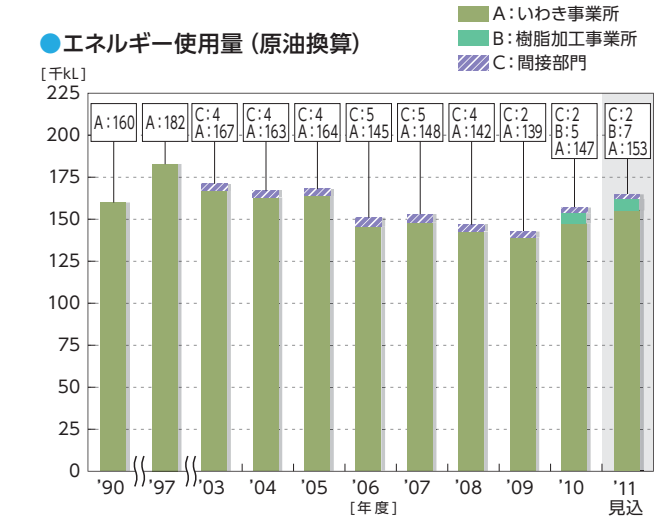


●省エネ法エネルギー使用量原単位指数:  
省エネ法に基づくいわき事業所の1997年度の原単位(エネルギー使用量÷付加価値生産額)を100とした各年度の指数

●改正省エネ法に基づく全社の2009年度の原単位を100とした各年度の指数

度はいわき事業所の二酸化炭素排出量を約14%、エネルギー使用量を約8%削減しました。また、経団連が進める環境自主行動計画では日化協算出方式・エネルギー使用量原単位指数で1990年度に対して16%改善しました。なお、日化協では、1990年に対する2008年から2012年の5年間の平均の削減目標として、原単位指数80を目指しています。

改正省エネ法が施行され、全社のエネルギー管理体制を整備しました。また、当社は特定事業者指定され、いわき事業所はあらためて第一種エネルギー管理指定工場になりました。



日化協エネルギー使用量原単位指数:  
日化協 基準製品換算方式  
A製品(ソーダ)を基準とした場合の当該年度のエネルギー使用量原単位=(A製品製造総エネルギー+B製品製造総エネルギー+C製品製造総エネルギー)÷(A製品生産数量+B製品生産数量×換算係数B90+C製品生産数量×換算係数C90)  
ただし、換算係数B90および換算係数C90とは、1990年度(基準年度)におけるB製品およびC製品のエネルギー使用量原単位の、A製品のエネルギー使用量原単位に対するそれぞれの比率を示す。  
エネルギー使用量原単位指数は1990年度の原単位を100とした各年度の指数。



大気汚染防止

いわき事業所は、いわき市と大気汚染防止に関する公害防止協定を結び、硫黄酸化物(SOx)の排出量の上限を定めています。また、窒素酸化物(NOx)およびばい塵の排出量上限は、いわき市との協議のうえ、いわき事業所で自主管理値として定めています。現在のいわき事業所は、これらの値を十分に達成した運転を継続しています。

SOx排出量

2006年度に発電設備の燃料を硫黄分の少ない石炭に変更したため、排出量が下がりました。以後、そのレベルを維持しています。

2011年度は、2010年度末に運転を終了した培土乾燥炉からの排出がなくなり、排出量はさらに低減する見込みです。

NOx排出量

燃料が燃える際に燃料に含まれている窒素や空気中の窒素が大気中の酸素と結合して窒素酸化物(NOx)が発生します。ボイラーが主な発生源です。

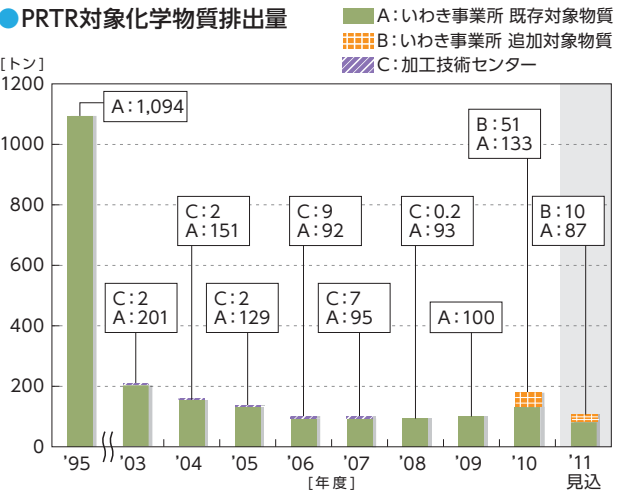
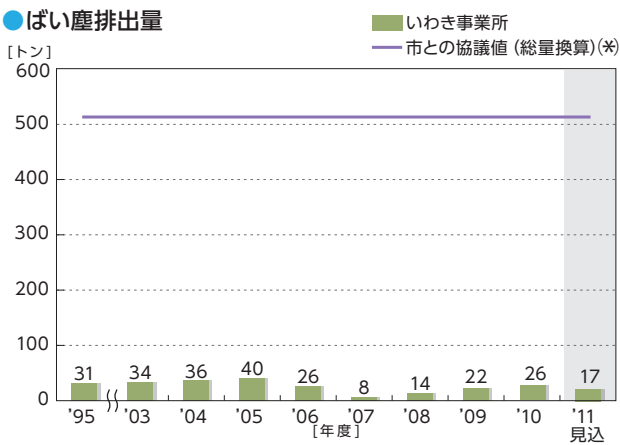
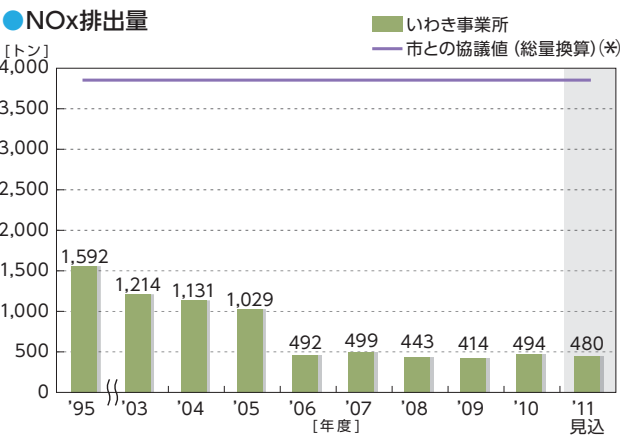
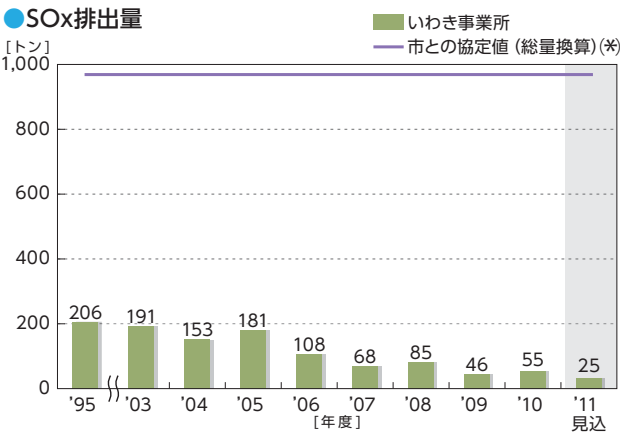
ばい塵排出量

大気中に浮遊する粒子状の物質のうち、燃料等の燃焼や電気炉等の使用に伴って発生する煤をばい塵と呼んでいます。ボイラーが主な発生源ですが、2011年度は、2010年度末に運転を終了した培土乾燥炉からの排出がなくなり、排出量はさらに低減する見込みです。

(\*)いわき市との協定値および協議値は濃度で定めていますが、グラフ上では総量に換算しています。

化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)

PRTR法とは、事業所から大気や公共水域などの環境へ排出されたり、廃棄物として移動された化学物質の量を、事業者が自ら集計し、都道府県を経由して国へ届け出る制度(PRTR制度)と、指定された化学物質およびそれを含有する製品を取り扱う事業者が、それらを他の事業者に譲渡等する際に、事前にその性状及び取り扱いに関する情報を提供することを義務付ける制度(MSDS制度)の実施により、事業者による化学物質の自主的な管理の改善を促進し、環境の保全上の支障を未



然に防止することを目的とする法律です。

届出の対象となっている化学物質(第一種指定化学物質)は2009年度まで354物質でしたが、法改正により2010年度からは462物質となりました。

2010年度の当社の第一種指定化学物質の排出量は、26物質で約184トン(大気:183.3トン 公共水域:0.4トン)でした。2010年度から新たに対象となった5物質で約51トン、震災関連で約29トンが増加しました。排出量削減については、今後も継続的に取り組んでいきます。

●2011年度 PRTR法届出値 (2010年度実績)

通し番号	政令番号	物 質 名	排出量 (kg)				移動量 (kg)	
			大気	公共水域	土壌	事業所内埋立	下水道	事業所外
いわき事業所の届出値								
1	3	アクリル酸エチル	230	0	0	0	0	120
2	7	アクリル酸n-ブチル	2,800	0	0	0		970
3	9	アクリロニトリル	1,400	10	0	0	0	0
4	16	2,2'-アゾビス(イソブチロニトリル	0	0	0	0	0	0
5	57	エチンゲンニコロル/エチルエーテル	320	0	0	0	0	0
6	71	塩化第二鉄	0	0	0	0	0	0
7	94	塩化ビニル	14,000	0	0	0	0	0
8	103	1-クロロ-1,1-ジフルオロエタン	3,000	0	0	0	0	1,500
9	125	クロロベンゼン	5,800	6	0	0	0	2,900
10	158	1,1-ジクロロエチレン	82,000	2	0	0	0	41,000
11	159	cis-1,2-ジクロロエチレン	0	0	0	0	0	1,200
12	181	ジクロロベンゼン	15,000	25	0	0	0	200,000
13	185	ジクロロペンタフルオロエタン	0	0	0	0	0	4,000
14	240	スチレン	970	16	0	0	0	600
15	243	ダイオキシン類(mg-TEQ)	0.0	7.6	0	0	0	0
16	280	1,1,2-トリクロロエタン	33	0	0	0	0	150
17	281	トリクロロエチレン	0	0	0	0	0	8,600
18	290	トリクロロベンゼン	31	0	0	0	0	12,000
19	302	ナフタレン	7,300	320	0	0	0	7,800
20	337	4-ヒドロキシ-1-シクロヘキセン	4,200	2	0	0	0	0
21	349	フェノール	2	0	0	0	0	0
22	351	1,3-ブタジエン	1,400	21	0	0	0	0
23	392	n-ヘキサン	41,000	0	0	150	0	6,000
24	400	ベンゼン	1,200	1	0	0	0	480
25	419	メタクリル酸n-ブチル	10	0	0	0	0	0
26	420	メタクリル酸メチル	2,600	0	0	0	0	890

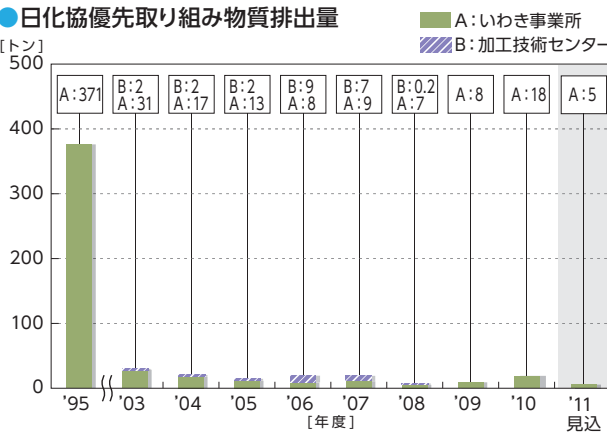
※ PRTR 法対象物質(第一種指定化学物質)で、年間取扱量 1t 以上の物質についての届出値です。  
※ 事業所外へ移動した物質は全て(株)クレハ環境(廃棄物処理業)で焼却処分しています。  
※ いわき事業所は下水道に接続されていないため、下水道への移動量はありません。

有害大気汚染物質排出量削減

化学工業界では、日本化学工業協会(日化協)を中心に、1995年から取扱量や有害性等を勘案して設定した有害大気汚染物質自主管理対象12物質の削減に取り組んできました。

当社では、2010年度は、塩化ビニル、ベンゼン、1,3-ブタジエン、アクリロニトリルの4物質を取り扱い、排出量合計は約18トンでした。

2010年度は1995年度を基準として約95%の削減となっています。





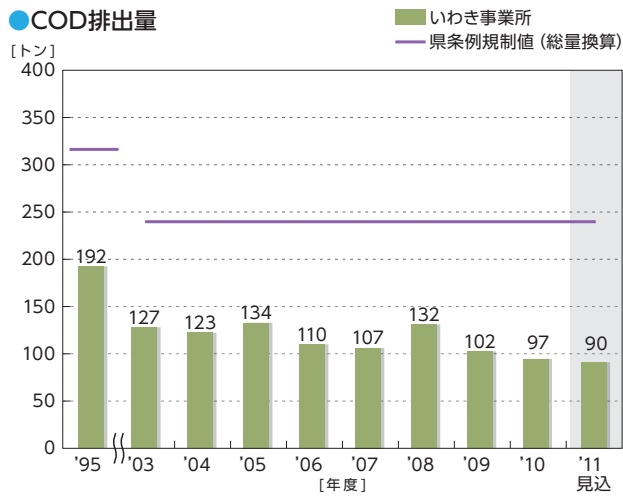
水質汚濁防止

いわき事業所の排水については、水質汚濁防止法と福島県条例（生活環境の保全等に関する条例および水質汚濁防止法に基づく排水基準を定める条例）に定められた排出基準を守る事を基本に操業してきました。

各プラントでの排水管理の徹底、排水処理設備の改善検討や安定運転の継続を図り、排水水質の維持向上に努めています。

COD排出量

化学的酸素要求量(COD)は1995年度と比べて約50%の削減を達成し、維持しています。今後も削減に向け、努力していきます。



県条例規制値とは：

いわき事業所は『福島県水質汚濁防止法に基づく排水基準を定める条例』により工場排水CODの濃度規制を受けています。その条例に定められている排水基準を基に算出(濃度×排水量)したCOD総量換算値です。

2001年度以降は排水量を削減しましたので、COD量としての規制値が低下しています。

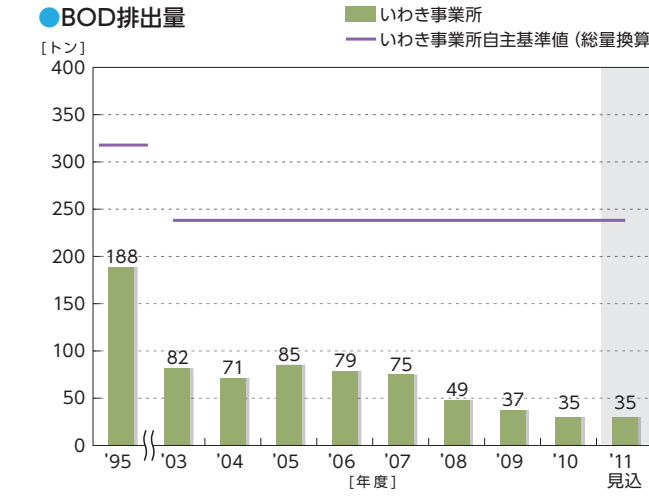
容器包装リサイクル法

2002年度から、主にプラスチックと紙の容器・包装の再商品化義務を履行しました、財団法人日本容器包装リサイクル協会と再商品化委託契約を結び、着実に実施しています。

当社が再商品化義務を負う容器包装の量(再商品化義務量)の推移を右に示します。

BOD排出量

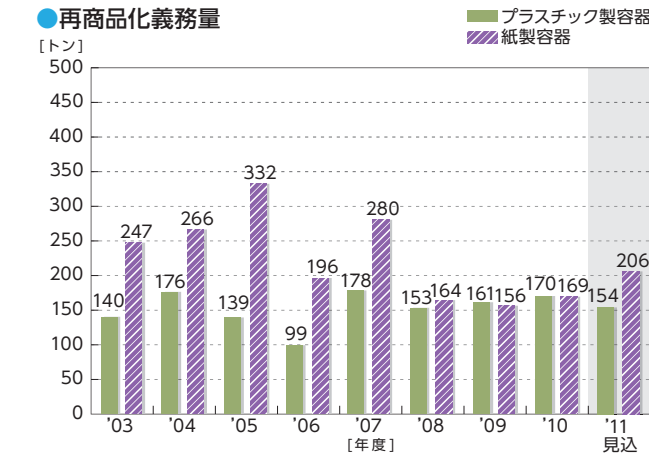
生物化学的酸素要求量(BOD)は1995年度と比べて約80%の大幅な削減を達成しています。今後も削減に向け、努力していきます。



いわき事業所自主基準とは：

いわき事業所におけるBODの濃度規制は、水質汚濁防止法の規制を受けています。しかし、前述の条例に定められているBOD排出基準の方が厳しい規制となっているため、条例の基準を自主基準と定めて管理しています。その自主基準を基に算出したBOD総量換算値です。

このBOD量自主基準もCODと同様に排水量削減により低下しています。

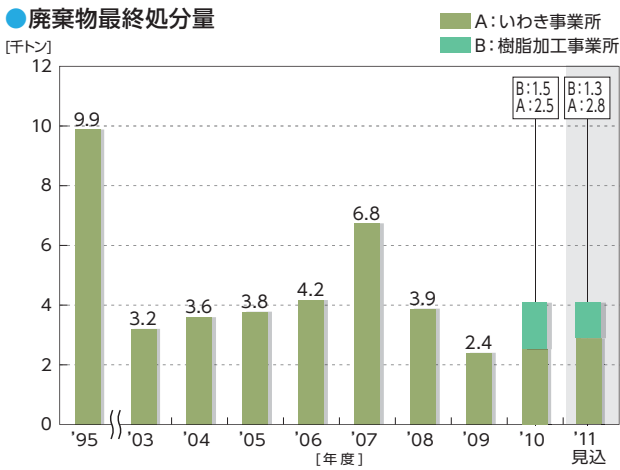


産業廃棄物の排出量削減とリサイクル

いわき事業所は、隣接する廃棄物処理会社である(株)クレハ環境等に産業廃棄物の処理を委託しています。また、いわき事業所は自社で管理型の最終埋立処分場を持つなど、事業活動から排出される産業廃棄物の処理は重要な企業責任であるとの考えで操業してきました。

2006年度から石炭を燃料とするボイラーを稼働し、廃棄物(石炭の燃え殻や集塵灰)の発生量が大きく増加しましたが、セメント等の原料として再資源化処理業者に委託処理することで、リサイクル率を向上させました。

今後とも廃棄物量の削減と、リサイクル率の向上に努めていきます。



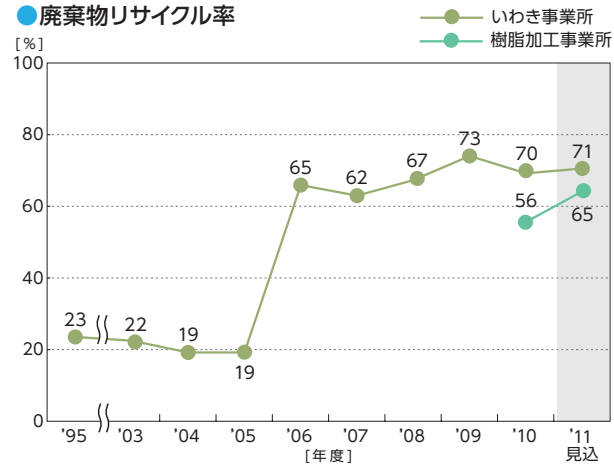
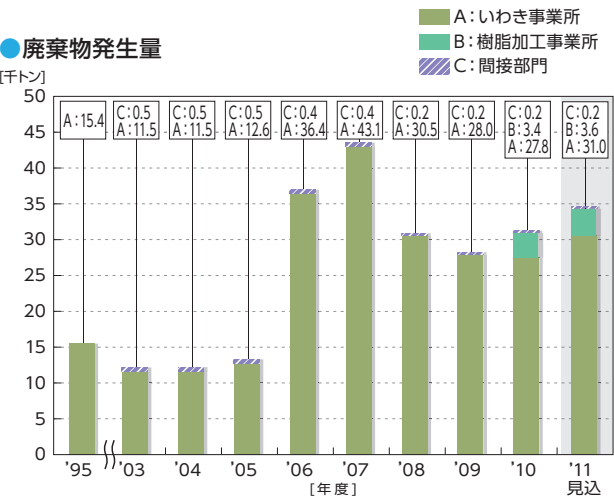
廃棄物最終処分量とは：

直接および中間処理(焼却減容化)後の廃棄物等を最終処分場に埋立処理した合計量です。

環境保全対策投資

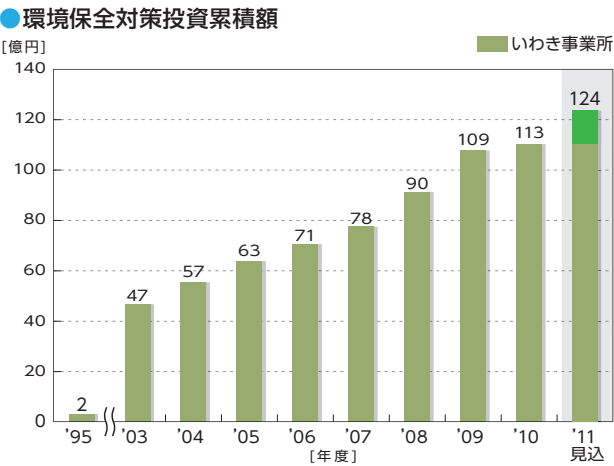
2010年度の環境保全対策投資額は、469百万円でした。その内訳は次のとおりです。

- |            |          |
|------------|----------|
| ① 大気汚染防止関係 | 約 66百万円  |
| ② 水質汚濁防止関係 | 約 380百万円 |
| ③ 省エネ省資源関係 | 約 18百万円  |
| ④ 廃棄物処理関係  | 約 5百万円   |



廃棄物リサイクル率とは：

リサイクル使用した廃棄物(再利用、再資源化・有価物含む)と廃棄物の発生量の比(リサイクル量÷廃棄物発生量)です。



# 保安防災に対する取り組み

## 保安防災

いわき事業所では、危険物・高圧ガス・毒劇物を多量に取り扱っています。このため、保安・防災は事業所の最も重要な責務であり、設備管理および運転管理を徹底して行っています。石油コンビナート等災害防止法、消防法、高圧ガス保安法、毒劇物取締法をはじめとする法律に定められた基準の順守にとどまらず、自主的な管理基準の設定や活動を行い、地域の信頼にさらに応えられるように保安・防災を強化しています。

### 主な保安防災訓練

緊急事態において、各従業員に与えられた役割を迅速かつ的確に遂行できるように、実践に即した訓練を実施しています。

#### ①総合防災訓練

大規模地震による製造装置や屋外タンク等からの危険物の漏洩、火災発生等を想定した防災訓練をいわき事業所の全職場を対象に実施しています。2010年度は、11月4日に福島県沖を震源とする震度6強の地震が発生したとの想定で、グループ会社を含む従業員約1,450名が参加、いわき市消防本部と連携して消火活動を行ったほか、いわき市消防団第三支団、いわき南警察署、いわき市環境監視センター、近隣の区長・自治会長の監察の下、実施しました。

#### ②社長保安査察・防災訓練

2006年に発生したPPSプラントの事故を風化させないため、火災があった9月7日を「防災の日」と定め、毎年、社長による保安査察・防災訓練を実施しています。2010年度は、9月6日に炭素繊維プラントで地震による塩素ガスの漏洩を想定して行いました。

#### ③職場ごとの訓練

いわき事業所全体の総合防災訓練とは別に、各職場では年間計画を立て、常備防災隊の指導の下で防災訓練を実施しています。



いわき事業所 総合防災訓練

#### ④樹脂加工事業所

茨城地区で『ボトル工場保全室のグラインダー火花がウエスに引火した』という想定で、2010年度総合防災訓練（避難、通報、搬出、初期消火等）を8月12日に実施しました。総合防災訓練終了後、屋内消火栓の設置職場で順次、屋内消火栓から放水し、水圧や操作方法等の確認を行いました。

柏原地区では、1月29日に『第2寮から出火』という想定

で、クレハ運輸(株)、Kureha Vietnam CO., LTD.の実習生も参加して避難訓練を実施しました。

#### ⑤事業所以外の防災訓練

本社、生物医学研究所および加工技術センターでは地元の消防署の立会いのもとで年1回の防災訓練を実施しました。



樹脂加工事業所（茨城） 総合防災訓練



樹脂加工事業所（茨城） 総合防災訓練

## 東日本大震災

いわき事業所（福島県）および樹脂加工事業所（茨城県小美玉市）が、3月11日に発生しました東日本大震災により被災いたしました。幸い、従業員の生命を失うような被災は免れましたが、生産設備や出荷設備の一部に被害が発生し、生産停止を余儀なくされました。震災発生以降、生産再開に向けて鋭意、点検・修繕を進め、樹脂加工事業所においては3月下旬から生産を再開しました。また、いわき事業所におきましては4月11日、12日の両日に発生しましたいわき市南部を震源とするマグニチュード7.0という大規模な直下型の余震により被害が拡大しましたが、再度、点検・修繕を実施し、5月上旬から自家発電を再開し、その稼動にあわせ、無機・有機薬品、PPS樹脂などの高機能樹脂製品、食品包装フィルム用原料などの生産を順次再開することができました。その間、お客様、お取引様、近隣の住民の方々にご心配やご迷惑をお掛けいたしましたこと心よりお詫び申し上げます。



# 労働安全衛生に対する取り組み

## 労働安全衛生

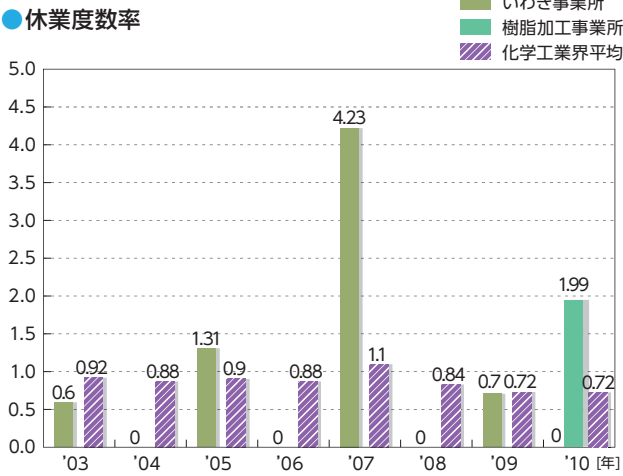
いわき事業所では、事故防止委員会や安全衛生委員会等の各種委員会の下、安全活動（整理・整頓・清掃・清潔・躰を励行する5S運動、指差し呼称運動、危険予知活動等）を展開しています。

また、2004年度からは労働安全衛生マネジメントシステム（OHSAS18001）を導入し、職場での安全確保に取り組んでいます。特に、リスクアセスメントに力を入れて、事故の芽を徹底的に摘み取るようにしています。2010年度は製造部門でリスクと抽出された事象に対して、設備改善で対応した事例が約68%、運用管理で対応した事例が約32%でした。これからも、事故の芽を放置することなく、設備改善につなげ、事故の未然防止に努めていきます。

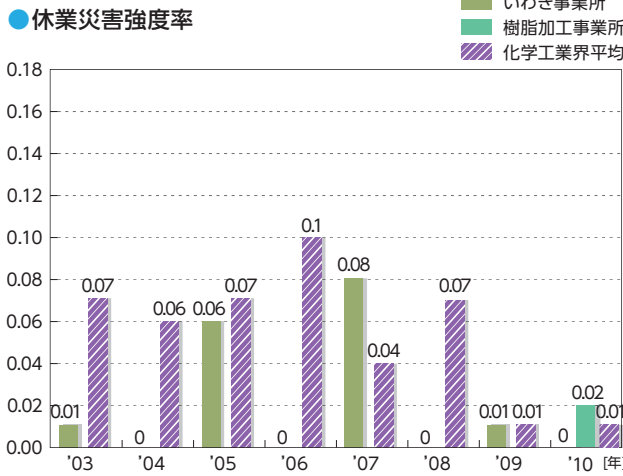
日本化学工業協会から生物医学研究所と加工技術センターは14年間、総合研究所は6年間連続無事故、無災害の確認を受けました。



総合研究所に対する無事故・無災害の確認証



休業度数率：100万労働時間あたりの死傷者の発生頻度を表す。  
休業度数率＝死傷者数÷労働延時間×1,000,000



休業災害強度率：死亡、傷病による損失日数を、その年またはその月の労働延時間数で除し1,000倍したもので、災害の程度の大小を知るための数値。  
休業災害強度率＝総損失日数÷労働延時間×1,000



安全大会

## いわき事業所安全大会

いわき事業所では、全国安全週間に合わせ、毎年安全大会を開催しています。2010年度は、2009年度の安全活動結果報告、コンサルタントの古賀良男先生による講演「危険の芽の気付きとその管理」を行いました。大会の最後には、事業所KYK推進委員の音頭で138名の出席者全員によるゼロ災達成に向けた指差唱和を行いました。

## いわき事業所KYK推進イベント

いわき事業所では、毎年製造部を主対象にKYK推進委員会主催によるKY（危険予知）演練を開催しています。  
2010年度は127名が参加し、選抜された7部署が演練を行いました。これからも安全文化を醸成し、ゼロ災を達成するため、従業員一丸となって活動を展開していきます。



KY（危険予知）演練

## 技能研修センター

いわき事業所では、グループ会社・協力会社とともに保安防災・労働安全衛生に対する意識の高揚に努め、一丸となって労働災害、事故の撲滅に取り組んでいます。その取り組みの一環として、危険を擬似体感できる技能研修センターを2005年11月に開所し、今年で7年目を迎えます。  
これまでに、いわき事業所といわき事業所の業務にかかわるグループ会社および協力会社の全従業員を対象とした安全・設備体感教育を延べ約16,200名が受講しました（2011年3月現在）。  
いわき地区以外の事業所やグループ会社も安全教育の一環として技能研修センターを活用しています。また、いわき地区の近隣の企業・団体からも約2,500名の方に受講していただいています。  
2011年7月からは、新規プログラムとして「救急救命体感」を開講し、体感プログラムのより一層の充実を図っています。

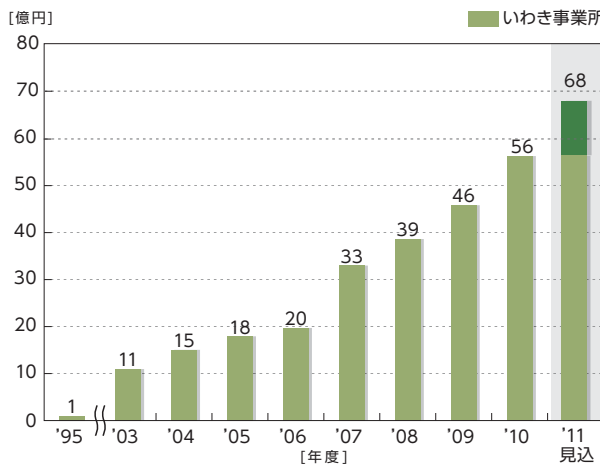


救急救命体感

## 保安防災・労働安全衛生対策投資

いわき事業所の保安防災・労働安全衛生対策投資額の推移を示します。継続的・計画的に、保安設備の改善と作業環境の維持・向上に努めています。  
今後も継続して、保安の確保と労働安全衛生の向上に努めていきます。

## 保安防災・労働安全衛生対策投資累積額





製品安全・品質保証に対する取り組み

品質方針

いわき事業所で1996年にISO9001:1996を認定取得、2003年に全社を対象としたISO9001:2000の認定取得から8年が経過しました。2009年12月にはISO9001:2008による維持審査に合格し、営業部門、間接部門を含めた当社品質保証システムの良好な運用状況が認証機関より評価されました。全社員が一体となり、製品安全の確保、製品品質の向上を基本に、お客様に満足していただける品質保証システムの維持、改善に取り組んでいます。

次に、2010年度の品質方針と主要テーマは以下のとおりです。

クレハ 品質方針

1. 私たちはお客様に一層満足していただけるよう、製品とサービスの品質向上に努めます。

2. お客様に安全な製品を提供し安心してご使用いただくことに努めます。

3. 保安防災を徹底し、製品の安定供給に努めます。

2010年度主要テーマ

①お客様に一層満足していただけるようご要望の確に把握し、品質マネジメントシステムを効率的に運用して品質の向上を図る。

②お客様の信頼確保のために、外注製造委託先を適切に管理し、外注製品の品質を適正に確保することにより、重大な苦情発生を未然に防止する。

③製品の安全性リスクを把握し、製品安全に関する事故の発生を未然に防止する。

④全社展開の「クレハ・パワーファイブ」を通じて、製造力を強化し、製造コスト低減を推進する。

この方針を受け各部署において毎年度、詳細な品質目標を策定し、進捗管理を実施しています。

製品安全・品質保証

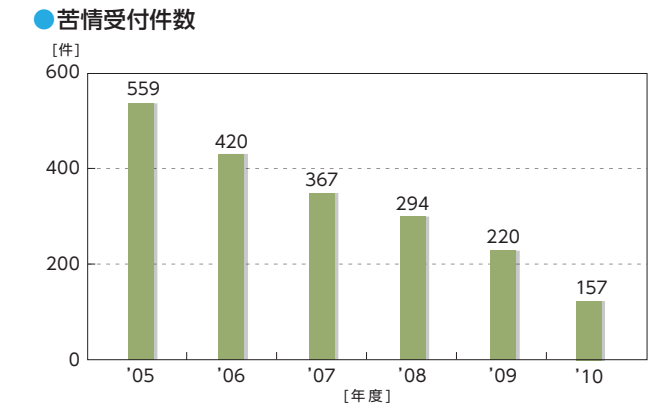
お客様に提供する製品の安全性を確保するために、社内専門家によって国内外関連法規、当社自主基準に基づく新製品安全審査を実施しています。新製品安全審査は、製品設計、原料購入、製品品質、包装規格にわたり、製品の上市にあたっては、包装表示、広告・宣伝、MSDS、知的財産権等の面からも厳格な審査を行っています。

製造や加工を外部委託している製品については、国内外の

委託メーカーに対し当社と同等の品質管理を求め、委託メーカーと一体となり、製品安全、製品品質の維持向上に努めています。

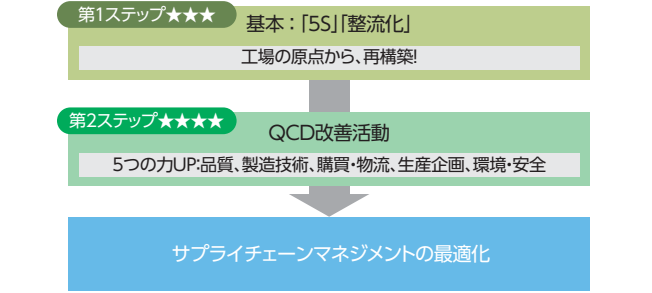
また、当社に対するお客様からの品質監査も積極的に受審しています。当社製造工程に対するお客様の視点によるご指摘、ご意見を基に確実な改善を実施し、苦情発生要因の撲滅を図り製品安全の向上に努めています。

ISO9001:2008に基づいた当社品質保証システムの適切な運用により、お客様からの苦情受付件数も減少傾向にあります。



クレハ・パワーファイブ

「[カイカクマインド]の組織風土を全社一丸となって形成することによって、顧客満足・企業業績の向上に持続的に寄与する。」を定義とし、2009年4月より本格始動したクレハ・パワーファイブ活動は、当初製造部門を中心とした活動が、2010年度にはその活動の輪を事業所間接部門まで広げました。活動1年目ではほとんどの製造部門で第1ステップである「[5S][整理化]」による「改善の土台作り」を達成し、社内外から高く評価されています。また、「異常・正常が認識できる定位置化」「作業手順のビジュアル化」の推進で、工程異常発生の未然防止、早期発見や不適合品の流出抑止効果が期待され、苦情受付件数の低減に寄与しています。今後、この「改善の土台」の上に、第2ステップである「QCD」のさらなる向上という高い目標を掲げ、クレハ・パワーファイブ5つの力(品質、製造技術、購買・物流、生産企画、環境・安全)のアップを目指し、お客様に満足していただける生産革新活動としていきます。



物流の環境負荷低減および物流安全に対する取り組み

物流段階での環境負荷低減

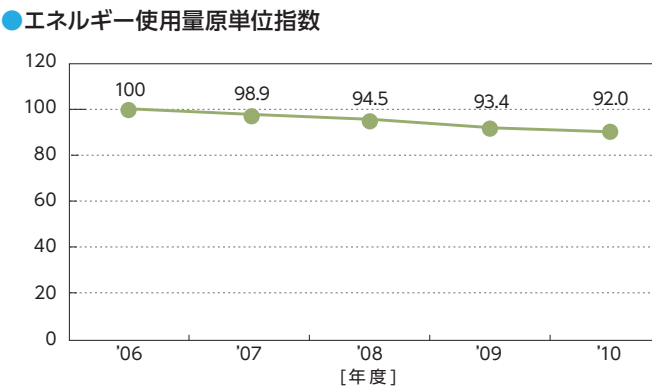
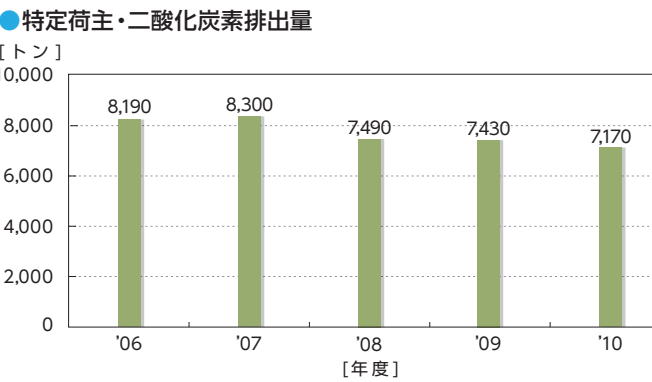
物流分野における環境負荷低減についても、近年、国の施策として二酸化炭素排出量の削減計画の策定と実績報告が毎年義務付けられ、当社でも中長期的にエネルギー使用量原単位を年平均1%以上低減させることを目標に、具体的な対策として、以下の事項の推進に取り組んでいます。

- ①生産拠点からの直送化推進による輸送距離の短縮
- ②中長距離の陸上トラック輸送から鉄道を利用したコンテナ複合輸送へ切り替えるモーダルシフトの実施
- ③近距離港の活用による陸上輸送距離の短縮
- ④取引運送事業者によるエコドライブの推進

また、2010年7月にはモーダルシフトへの取り組みが評価され、「エコレールマーク」の取組企業認定ならびにNEWクレラップをはじめとする家庭用品の商品認定を受けました。

なお、2010年度の物流段階におけるエネルギー使用量原単位(エネルギー使用量/輸送重量)は、2006年度に比べて8.0%の削減となりました。一方、2010年度の二酸化炭素の排出量は、2006年度に比べて1,020トン減少し、12.5%削減となりました。

今後も需要家のご理解をいただきながら、関係部門が協調し、物流段階における環境負荷の低減を進めていきます。



エネルギー使用量原単位指数：2006年のエネルギー使用量原単位を100とした各年度の指数

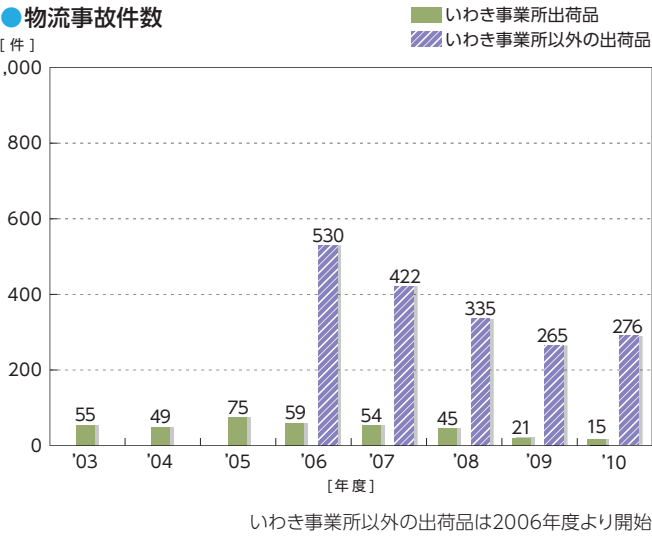
物流事故対策

誤出荷・誤納品、未着・延着、汚れ・水濡れ、破袋・破缶・へこみ、漏洩・流出、設備破損、さらには受注ミスまでを物流事故の範疇として捉え、物流事故が発生した場合は、速やかに「物流事故発生報告書」を提出することを義務付けています。

事故発生の原因を究明し再発防止策を実行することは、個別案件ごとに適宜対応していますが、さらに、いわき事業所出荷品については2か月に1回、樹脂加工事業所出荷品については四半期に1回の頻度で、物流業者を交えての「物流事故防止検討会」を開催し、再発防止策の進捗状況および効果を確認すると共に、より一層の物流事故削減に向けての取り組みの強化、徹底を図るよう要請しています。

最近では、クレハ・パワーファイブの取り組みも活かし、作業手順書やマニュアルの見直しとビジュアル化(見える化)を徹底させることで、作業者の理解を容易にすると共に、事故発生後の原因究明や対策の周知徹底・強化にも役立てることができるようになり、物流事故の再発防止に効果を挙げています。

また、上記事業所以外の出荷品についても、定期的に取り引先の輸送業者や倉庫業者に対し「物流業者評価」として、安全管理面(法令順守、安全教育、事故対策、緊急時対応等)に重点を置いた監査を実施し、物流事故削減に対する意識の高揚と促進に取り組んでいます。





# 環境に配慮した製品に対する取り組み

クレハグループが製造・販売している環境配慮型製品を紹介します。



## A NEW クレラップ



使い心地と品質の良さにこだわり続ける家庭用ラップ

## B クリップレス包装システム



酸素を通さず食品を美味しく保つクレハロン>を使用して、食品を安全かつ効率的に金属を使用せずに包装する自動充填結紮機<KAP>

## C <キッチンさん>シリーズ



食品調理・保存容器、冷凍・冷蔵庫用ポリ袋、クッキングペーパーなどハウスワークを効率よくサポートする家庭用品

## D 負極材 <カーボトロンP>



ハイブリッド車、電気自動車や携帯電話などのリチウムイオン電池の負極材料

## E バインダー用 フッ化ビニリデン樹脂



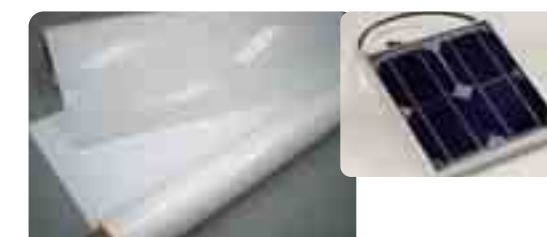
リチウムイオン電池電極用バインダーに使用されるフッ化ビニリデン樹脂

## F 炭素繊維 <クレカ>



太陽電池を製造する高温熱処理炉などの断熱材に使用されるピッチ系炭素繊維

## G 保護フィルム <KTF フィルム>



太陽電池向け保護フィルム

## H PPS樹脂 <フォートロンKPS>



耐熱性や高強度を生かし、自動車やOA機器の部品に使用される素材

## J 球状活性炭 <BAC>



ガス吸着や水質浄化分野などで使用される吸着剤

## I PGA樹脂 <クレダックス> <クレサージュ>



高いガスバリア性、高強度、易加水分解性などに優れた樹脂。包装容器(炭酸飲料のボトル等)、医療用途(手術用縫合糸)、石油掘削用途に応用可能



クレハ エクステック株式会社

会社概要

設立年月日

資本金

売上高(期)

従業員数

本社所在地

ホームページ

1982年2月10日

2億円

21億5,700万円(2011年3月期)

80人

茨城県かすみがうら市宍倉5691

http://www.kureha-xt.co.jp/



代表取締役社長  
松尾 修介

会社紹介

当社は、1959年三晃工業株式会社(東京都大田区羽田)として創業、1963年に千葉県柏市に移転し三晃プラスチック株式会社に変更、さらに2005年4月には当社の技術基盤である押出技術(Extrusion Technology)を社名に取り入れクレハ エクステック株式会社に社名変更しました。

当初は、硬質塩ビフィルム・シート、ポリエチレンパイプ、プラスチック成型品が主要製品でしたが、現在は、高機能フィルム(太陽電池用保護フィルム、オーバーレイ用多層フィルム他)、食品包装用フィルム(「ペアフлекс」他)、プラスチック加工品(プリンタ用インク供給チューブ、レンズトレー他)を主要製品として生産販売しています。

CSR活動

コーポレート・ガバナンス

当社は、2006年に内部統制システムの基本方針を決定し、企業理念、目指すべき方向、行動基準を基本コンセプトにおき企業活動を展開しています。また、クレハグループ会社として、コンプライアンス、情報管理、リスク管理、RC活動に取り組んでいます。

RC活動

経営方針に「コンプライアンスの推進とレスポンシブル・ケア活動の強化」を明記し宣言しています。全従業員には、クレハグループ倫理憲章をはじめ環境方針、品質方針等を明記した「カード」を配付し周知徹底を図ると

パフォーマンスデータ

項 目	単位	2006	2007	2008	2009	2010
エネルギー使用量(原油換算)	kL	1,859	1,475	1,263	1,142	871
エネルギー原単位(対売上)	kL/百万円	0.66	0.71	0.69	0.77	0.4
二酸化炭素排出量(炭素換算)	トン	865	657	649	584	369
労働災害発生件数	件	0	0	0	0	0
死亡災害発生件数	件	0	0	0	0	0
延べ労働時間	千時間	201	203	193	165	163
休業災害度数率	—	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
休業災害強度率	—	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
設備災害発生件数	件	0	0	0	0	0
廃棄物発生量	トン	579	448	373	267	378
リサイクル量	トン	564	438	349	238	349
リサイクル率	%	97	98	94	89	92
埋立量	トン	15	10	24	29	29

ともに、RC年度実施計画に基づき、環境保全、労働安全衛生、化学品安全等に配慮したRC活動を展開しています。

■コンプライアンスへの取り組み

倫理憲章に基づき、2004年「コンプライアンス規定」、「コンプライアンス相談窓口取扱規定」を制定、さらに「コンプライアンス・ハンドブック」を作成し、行動基準を明確にしています。また、全従業員に対しコンプライアンス教育を実施し啓蒙を図っています。

■品質・環境に対する取り組み

当社は、1999年にISO9001を取得、その後2009年12月に単層・複合フィルム・シートに拡大しISO9001:2008年版を認証取得しました。

品質管理は、マネジメントシステムを有効に活用し、継続的に改善活動を図ると共に当社独自の工夫(クレーム等の対策結果検証システム)を取り入れ、顧客に満足していただける製品を提供できるよう努力しています。環境に対しては、2007年3月にISO14001の認証を取得、その後2011年2月に機能性樹脂のコンパウンド製造に拡大しISO14001:2004年版を認証取得いたしました。従来から行ってきたRC活動をベースとした独自の環境マネジメントシステムをさらに発展させ、より環境にやさしい環境システムを構築しています。

当社では、(株)クレハが製造するポリフッ化ビニリデンを使用し、当社の押出技術を活用した太陽電池向け保護フィルム等二酸化炭素排出量削減に役立つ製品を開発、また、包装材料分野においてもフィルムの薄膜化を図り省資源に努める等、環境に優しい製品提供を心掛けています。

■労働安全衛生に対する取り組み

ヘルスケアとして、2004年に「メンタルヘルス規定」を制定し、相談窓口を開設しました。また、産業医による健康相談会を毎月実施しています。労働安全に関しては、ゼロ災を目指して、クレハパワーファイブ、5S活動、安全教育、安全パトロール等各種の活動を実施し、無災害時間は177万時間・人に達しています。

■廃棄物、省エネ関連

2003年度より、廃棄物のリサイクル化に取り組み、2004年度には、リサイクル率が59%であったものが、2005年度以降は、ほぼ90%台まで向上しました。また、省エネに対しては、改正省エネ法第二種エネルギー管理指定工場に準じて省エネ活動を推進しており、2010年度は、対前年比エネルギー使用量で24%、温室効果ガス排出量も25%削減することができました。



保護フィルム使用例：太陽電池モジュール

クレハ合繊株式会社

会社概要

設立年月日

資本金

売上高(期)

従業員数

本社所在地

ホームページ

1963年4月1日

1億2,000万円

25億円(2011年3月期)

112名

栃木県下都賀郡壬生町元町1-63

http://www.kureha-gohsen.co.jp/



代表取締役社長  
水野 俊夫

会社紹介

“わたしたちは、一人ひとりの心と夢を大切に、誠実を旨として、創造性と優位性のある「コア技術」を絶え間なく追求し、お客様から信頼される「only one」の環境に優しいプラスチック加工会社として社会に貢献し続けます。”を経営理念として、合成樹脂繊維製品、成形品および射出成形用金型の製造・販売を行っています。

CSR活動

コンプライアンス方針、RC方針を基本として、統合された品質(ISO9001)・環境(ISO14001)・労働安全衛生(OHSAS18001)の3つのマネジメントシステムの有効な運用を推進しています。

■環境保全活動

- ①ISO14001:2004年版を取得し、環境目標値の達成に向けた活動を推進しています。
- ②2010年度の活動状況では、基準年(2007年度)に対し、電気使用量を25%、A重油使用量を20%上回る削減を行いました。
- ③地域社会との共生活動として、毎月工場外周辺の美化清掃と

パフォーマンスデータ

項 目	単位	2006	2007	2008	2009	2010
エネルギー使用量(原油換算)	kL	1,405	1,439	1,181	926	1,068
エネルギー原単位(対売上)	kL/百万円	0.40	0.41	0.49	0.45	0.42
二酸化炭素排出量(炭素換算)	トン	712	690	518	596	530
労働災害発生件数	件	0	0	1	0	0
死亡災害発生件数	件	0	0	0	0	0
延べ労働時間	千時間	222	222	227	195	231
休業災害度数率	—	0.00	0.00	4.58	0.00	0.00
休業災害強度率	—	0.00	0.00	0.92	0.00	0.00
設備災害発生件数	件	0	2	0	2	0
廃棄物発生量	トン	601	667	361	224	178
リサイクル量	トン	267	309	268	179	134
リサイクル率	%	45	46	74	80	75
埋立量	トン	334	358	94	45	45
PRTR法届出物質数	件	1	1	1	1	0
排出量計	kg	0	0	0	0	0
移動量計	kg	185	106	213	54	0

- 隔月の最寄鉄道駅周辺道路の美化清掃を実施しています。
- ④産業廃棄物業者への環境監査を実施し、プラスチック廃棄物については基準年の60%減を達成、また、再生利用を実施する等、環境負荷の低減を図っています。

■保安防災活動

パトロールを強化して、災害等の発生による作業環境の変化に対して冷静かつ迅速に対応できるよう努めています。また、緊急事態に対応するための総合訓練(通報・消火・避難訓練)を2010年7月に実施しました。

■労働安全衛生活動

- ①事故ゼロを目指して、ヒヤリハット活動等の労働災害リスクの低減活動を継続して推進しています。
- ②2010年度の労働災害(4日以上 の休業)は0件でした。
- ③全社的なTPM・5S活動を推進しています。

■品質保証活動

- ①製造における最重要責任事項は【品質第一】であることを確認し、顧客満足度の向上を目指して継続的な改善活動を行っています。
- ②顧客苦情、工程内不良の削減を図り、顧客満足度の向上を目指す活動を実施しています。
- ③各マネジメントシステムのさらなる効果的な活用を行うため、統合運用化の準備を開始しています。

■環境にやさしい製品の提供

- ①下水の高速ろ過材として、ポリ塩化ビニリデン繊維を球体構造とした水処理資材「バイオボール」を販売しています。
- ②使用後のコンポスト化により、水と炭酸ガスに分解する植物由来のグリーンプラ製品「エコルティア」を販売しています。



消火訓練





## クレハ運輸株式会社

会社概要	設立年月日	1962年8月25日
	資本金	3億円
	売上高(期)	72億9,800万円(2011年3月期)
	従業員数	178名
	本社所在地	福島県いわき市錦町落合69番地
	ホームページ	http://www.kure-un.co.jp/
	 代表取締役社長 庄司 和俊	

### 会社紹介

常に「輸送の安全と信頼」を事業の基本理念として物流サービスの向上を目指し、顧客企業との共栄に努めてまいりました。クレハ・パワーファイブへの参画で、5Sと仕事の整流化を推進し物流品質の向上を図り、皆様から信頼をいただける企業を目指してまいります。

### CSR活動

経営理念『物流品質を高めて安全で豊かな社会づくりに貢献する』のもと、クレハ運輸グループは、コンプライアンスの実践と積極的なRC活動により、環境・安全・品質のさらなる向上を目指して活動を展開しています。主な活動は以下のとおりです。

#### ■環境安全活動

- ①環境ISOの推進
- ②大型車両のデジタルタコグラフの活用で輸送時に排出される地球温暖化ガスの排出量削減と、運行管理を充実
- ③酸化触媒装置、DPF装置の取り付けで排気ガスを清浄化
- ④水質汚染防止のための毎日の排水管理

#### パフォーマンスデータ

集計範囲:クレハ運輸グループ

項 目	単位	2006	2007	2008	2009	2010
エネルギー使用量(原油換算)	kL	2,811	2,834	2,668	2,661	2,554
エネルギー原単位(対売上)	kL/百万円	0.22	0.22	0.21	0.25	0.23
二酸化炭素排出量(炭素換算)	トン	2,046	2,064	1,905	1,873	1,889
労働災害発生件数	件	0	0	0	2	0
死亡災害発生件数	件	0	0	0	0	0
延べ労働時間	千時間	695	794	788	762	756
休業災害度数率	—	0.00	0.00	0.00	2.26	0.00
休業災害強度率	—	0.00	0.00	0.00	0.12	0.00
設備災害発生件数	件	0	0	0	0	0
物流事故件数	件	37	41	37	46	28
廃棄物発生量	トン	24	26	28	41	40
リサイクル量	トン	24	26	28	36	35
リサイクル率	%	100	100	100	87	87
埋立量	トン	0	0	0	0	0
PRTR法届出物質数	件	4	4	4	4	4
大気排出量	kg	38	42	38	36	39
外部移動量	kg	0	0	0	0	0

⑤地域安全パトロールの実施(いわき地区)

#### ■物流安全に関わる活動

- ①品質ISOの向上
- ②独自の予防安全活動”アタック-0”の推進
- ③安全作業実技訓練の開催
- ④トラックドライバーコンテストへの参加
- ⑤車両日常点検の強化

#### ■保安防災に関わる活動

- ①誤納入、薬傷事故防止のための薬品混合実験の実施
- ②夜間緊急通報訓練の実施
- ③消火訓練の実施
- ④クレハ技能研修センターでの安全研修受講

#### ■地域社会活動への参加

- ①市民総ぐるみ運動への参加
- ②地域の清掃活動、安全活動への参加



平ボディ安全作業実技訓練



いわき営業所での車両日常点検



千葉営業所ローリーセンターでの薬品実験



アタック-0 出動式

## クレハ錦建設株式会社

会社概要	設立年月日	1956年3月10日
	資本金	3億7,000万円
	売上高(期)	107億6,300万円(2011年3月期)
	従業員数	232人
	本社所在地	福島県いわき市錦町綾ノ町16
	ホームページ	http://www.kurehanishiki.co.jp/
	 代表取締役社長 國井 英一	

### 会社紹介

当社は、総合建設業として、建築・土木・住宅およびプラント関連の幅広い分野において、お客様にご満足をいただける商品とサービスを提供しています。人と環境と未来のために、技術革新に取り組み、人と自然が共生できる環境づくりと地震などの自然災害の対策に力を入れています。また、安全で安心していただける快適な生活環境の提供を、企業活動の大きな目標としています。グループ企業のクレハ電機(株)・クレハ設備(株)およびクレハ工事(株)と共に総力を挙げ、自然と調和する豊かな未来を築くことを目指して、事業活動に取り組んでいます。

### 事業内容

- 商業施設(ショッピングセンター、テナント等)の新築および改修
- 医療、福祉施設(病院・医院、介護等)の新築および改修
- 公共施設(学校・体育館・保育園等)新築および改修
- 生産施設(プラント・工場等)の新築および改修
- ライフライン(トンネル・橋梁・道路等)新設および維持
- 一般住宅の新築、増改築、リフォーム
- 賃貸住宅(ヒーローマンション、賃貸マンション)の新築および改修
- 不動産の売買、仲介、管理

#### パフォーマンスデータ

項 目	単位	2006	2007	2008	2009	2010
エネルギー使用量(原油換算)	kL	145	99	74	87	90
エネルギー原単位(対売上)	kL/百万円	0.01	0.01	0.00	0.01	0.01
二酸化炭素排出量(炭素換算)	トン	58	39	36	43	44
労働災害発生件数	件	1	0	0	0	0
死亡災害発生件数	件	0	0	0	0	0
延べ労働時間	千時間	567	609	659	663	636
休業災害度数率	—	1.76	0.00	0.00	0.00	0.00
休業災害強度率	—	0.05	0.00	0.00	0.00	0.00
設備災害発生件数	件	0	0	0	0	0
廃棄物発生量	トン	7,103	6,867	16,155	7,532	10,130
リサイクル量	トン	6,238	5,921	8,213	6,370	8,429
リサイクル率	%	88	86	51	85	83
埋立量	トン	865	943	7,942	1,162	1,701

### CSR活動

クレハグループRC方針のもとに、品質・環境・安全の向上を目指し、オールクレハ協議会の一員として、当社グループ企業と共に全員参加によるRC活動を進めています。

#### ■コンプライアンス

地域社会から必要とされる企業として社会的責任を果たし、「クレハグループ倫理憲章」に基づき、コンプライアンス(法令および社会規範の遵守)の実践に努めています。

#### ■環境保全

- ①「福島議定書」に基づき、各種温暖化対策およびゼロエミッションに取り組み、二酸化炭素の排出削減に努めています。
- ②原発問題による電力不足対策として、節電(昨年の社内使用電気量の15%削減)に積極的に取り組んでいます。

#### ■保安防災・労働安全衛生

- ①東日本大震災および原発事故の教訓として、従業員の安否確認のための緊急連絡網の再整備および従業員の被爆防止対策として、放射線量の定時測定を実施しています。
- ②「労働災害ゼロ」を目指し、労働安全衛生マネジメントシステムおよび労働安全衛生協議会による災害防止活動に取り組んでいます。工事現場における安全衛生対策とリスクアセスメントKYを確実に実施して災害防止に努めています。

#### ■地域社会との共生・交流

- ①クレハグループによるCSR地域対話集会に参加して、地域社会のご意見等を経営に反映させています。
- ②地元の中高生を受け入れて、職場体験・現場実習教育に協力しています。また、道路美化運動、清掃ボランティア等地域行事に参加し交流を深めています。



第33回安全衛生大会



情報セキュリティの学習



道路美化運動





## 株式会社クレハエンジニアリング



代表取締役社長  
宮守 保

会社概要	設立年月日	1972年10月2日
	資本金	2億4,000万円
	売上高(期)	78億円(2011年3月期)
	従業員数	312人
	本社所在地	福島県いわき市錦町落合135
	ホームページ	http://www.kureha-eng.co.jp/

### 会社紹介

当社は、常にお客様の立場に立ち、品質の高いエンジニアリングやメンテナンス技術を提供することにより、お客様から信頼されることを、最も大切な行動哲学としています。

化学プラント、医薬品プラント、食品プラント等各種プラントに関して、調査をはじめとする基本設計から建設・試運転までの一貫したエンジニアリングに加え、豊富な経験と最新技術により万全な設備メンテナンスを行っています。

また、水処理・ガス処理・廃棄物焼却処理等の環境保全に関する高い技術と独自のプロセスを有し、一般プラント技術と併せて幅広くお客様に提供させていただいています。

多機能な技術集団を抱え、より豊かな社会を目指し、お客様とともに歩む総合エンジニアリング会社です。

### 事業内容

- 化学・医薬・食品その他の産業用プラントおよび付帯設備・機器の設計、製造、工事、販売および現地工事管理、メンテナンス
- 水・ガス・廃棄物焼却設備、特殊機能機器の設計、製造、工事、販売および現地工事管理、メンテナンス
- 水質浄化材の製造および販売

#### パフォーマンスデータ

項 目	単位	2006	2007	2008	2009	2010
エネルギー使用量(原油換算)	kL	401	269	453	468	486
エネルギー原単位(対売上)	kL/百万円	0.03	0.03	0.03	0.04	0.06
二酸化炭素排出量(炭素換算)	トン	218	163	254	252	265
労働災害発生件数	件	1	0	0	0	1
死亡災害発生件数	件	0	0	0	0	0
延べ労働時間	千時間	575	555	690	667	629
休業災害度数率	—	1.74	0.00	0.00	0.00	1.59
休業災害強度率	—	0.20	0.00	0.00	0.00	0.01
設備災害発生件数	件	5	4	1	0	2
廃棄物発生量	トン	8,154	4,188	19,197	809	1,241
リサイクル量	トン	7,081	2,798	17,590	131	921
リサイクル率	%	87	67	92	16	74
埋立量	トン	366	782	1,187	325	256

### CSR活動

(株)クレハの指導のもと、内部統制、コンプライアンス、情報管理、リスク管理の体制を整えつつ、お客様や取引先、従業員に対する取り組みを行い、さらに地域社会とのコミュニケーションや社会貢献にも積極的に取り組んでいます。

#### RC活動

クレハグループのRC方針のもと、企業理念および環境・品質・安全衛生の各方針に基づくRC活動を推進し、かつ、各グループ会社との協調を基に全員参加で環境・品質・安全の向上を目指して本活動を進めています。

#### ■環境保護

ISO14001に基づく環境マネジメント運営において環境方針および環境目標を設定し、環境負荷低減への貢献および環境保護活動をととして、二酸化炭素排出抑制に繋がる製品の開発や提供、産業廃棄物のリサイクルに取り組んでいます。

#### ■労働安全衛生

元請事業所として、協力会社を含む全従業員の安全をより確実なものにするため、リスクアセスメントおよび始業前RKYの充実と実行を中心に事故防止を図る一方、安全衛生委員会やクレハ安全協議会、並びに協力会社と組織しているクレハエンジニアリング安全協議会を通じて、情報の共有化とコミュニケーションを図り、安全衛生に日々取り組んでいます。

#### ■製品品質

ISO9001に基づく品質マネジメント運営において品質方針および品質目標を設定し、プラント製品・工事・サービスの継続的改善と、顧客満足度の向上に取り組んでいます。



VOC回収・脱臭装置  
《ガスタック》  
球状活性炭を使用した流動床吸着装置も当社の製品の一つです。  
排ガス中のVOCを効率的に除去し、高純度の溶剤として回収し、環境保全に大きく貢献しています。



## 株式会社クレハ環境

会社概要	設立年月日	1971年12月1日
	資本金	2億4,000万円
	売上高(期)	44億4,000万円(2011年3月期)
	従業員数	259人
	本社所在地	福島県いわき市錦町四反田30番地
	事業所所在地：ウェステックパーク ：かながわ事業所	福島県いわき市錦町落合136-1 神奈川県川崎市川崎区千鳥町6番1号
	ホームページ	http://www.kurekan.co.jp/



代表取締役社長  
福田 弘之

### 会社紹介

当社は、いわき市と川崎市にある二つの事業所で、産業廃棄物の安全かつ適正な処理を行っています。

また、大規模な不適正保管廃棄物の撤去・処分などの修復事業も実施しています。廃棄物の適正処理と同様に、この種の環境修復も重要なことと捉え、計画・実施技術の提供も行っています。さらに処理の難しいとされる廃棄物の処理技術や環境負荷の大きい廃棄物の適正な処理を通し社会貢献に取り組んでいます。

### CSR活動

#### ■近隣地区と定期的に交流をもっております。

施設見学や交流会を通し、地域の方々に当社がどのような仕事を行っているのかご視察いただきました。また、地域の高校生が環境教育の一環として当社を訪れました。



環境教育

#### パフォーマンスデータ

項 目	単位	2006	2007	2008	2009	2010
エネルギー使用量(原油換算)	kL	11,516	14,109	10,600	2,527*	4,288*
エネルギー原単位(対売上)	kL/百万円	2.47	2.70	2.13	0.6998	0.9655
二酸化炭素排出量(炭素換算)	トン	22,966	26,182	27,732	22,734	25,148
労働災害発生件数	件	0	1	1	0	0
死亡災害発生件数	件	0	0	0	0	0
延べ労働時間	千時間	376	409	441	431	489
休業災害度数率	—	0.00	2.44	2.26	0	0
休業災害強度率	—	0.53	0.03	0.39	0	0
設備災害発生件数	件	0	0	0	0	0
廃棄物発生量	トン	27,305	25,063	24,800	15,449	20,436
リサイクル量	トン	2,802	4,249	3,427	1,988	2,209
リサイクル率	%	10	17	14	13	11
埋立量	トン	24,503	20,814	21,373	13,461	18,227
PRTR法届出物質数	件	30	30	30	30	31
水域排出量	kg	19,491	16,916	7,224	5,552	6,180
外部移動量	kg	0	0	0	0	0

※2009年度エネルギー使用量の集計から再生油分を削除しました。

#### ■環境対策

臭気対策を最優先課題として取り組んでいます。ウェステックパーク内外に設置してある臭気センサーのデータをリアルタイム監視できるシステムを構築しました。

また、2010年度は、活性炭を通すことで臭気を吸着するシステムを導入しました。

#### ■保安防災

毎年、地元の勿来消防署と合同で防災訓練を実施しています。2010年度も実際に泡消火剤での放水を行いました。また、その様子を地域の役員の方にご視察頂き、貴重なご意見を頂戴いたしました。

#### ■景観向上・環境美化

会社周辺の環境美化に取り組んでいます。定期的に行っている草刈りや枝はらいの他に、緑地公園の開放を行っています。

2010年度は、さらなる景観の美化を目的をして会社周辺の植栽を行いました。

#### ■かながわ事業所開設

2010年4月1日付けで(財)かながわ廃棄物処理事業団を譲り受け、クレハ環境かながわ事業所として、事業を開始しました。

これまで培ってきた廃棄物処理技術を基盤に、安心・安全を最優先とした信頼ある廃棄物処理事業を展開してまいります。



臭気監視システム



総合防災訓練




緑地公園「いいこの広場」



かながわ事業所



## 株式会社クレハ分析センター

会社概要	設立年月日	1990年11月14日
	資本金	5,000万円
	売上高(期)	13億2,000万円(2011年3月期)
	従業員数	142人
	本社所在地	福島県いわき市錦町落合16
	ホームページ	http://www.kureha-bunseki.co.jp/
	 代表取締役社長 谷中 幹郎	

### 会社紹介

当社は(株)クレハの製品検査部門が分離独立し、地域密着型の分析機関として設立されました。

現在、(株)クレハの製品検査の他、各種環境分析(農薬分析、ダイオキシン類分析、アスベスト分析等)、異物分析、水生生物を使用した生態影響試験(GLP基準)等、幅広い分野で業務を行い、特に医薬本部の骨検査は全国的に高い評価をいただいています。

2010年度はフッ素系界面活性剤であるPFOS、PFOAや絶縁油中の微量PCBの分析を確立しました。また、大型プロジェクトである小名浜港湾の埋立て業務等の分析を受注しました。

### CSR活動

クレハグループのRC方針に基づき策定した「RC方針」および「品質方針」の下、環境・安全・品質部を中心として全員参加で活動を行っています。マネジメントシステムは、(株)クレハいわき事業所の管理単位としてISO9001、ISO14001、OHSAS18001の認証を受けています。

#### パフォーマンスデータ

項 目	単位	2006	2007	2008	2009	2010
エネルギー使用量(原油換算)	kL	294	306	309	323	397
エネルギー原単位(対売上)	kL/百万円	0.21	0.20	0.20	0.24	0.30
二酸化炭素排出量(炭素換算)	トン	116	120	121	127	155
労働災害発生件数	件	0	0	1	0	0
死亡災害発生件数	件	0	0	0	0	0
延べ労働時間	千時間	261	249	266	240	260
休業災害度数率	—	0.00	0.00	3.76	0.00	0.00
休業災害強度率	—	0.00	0.00	0.02	0.00	0.00
設備災害発生件数	件	0	0	0	0	0
廃棄物発生量	トン	52	34	25	30	35
リサイクル量	トン	2	2	1	3	4
リサイクル率	%	4	5	5	8	11
埋立量	トン	0	0	0	0	0
PRTR法届出物質数	件	1	1	1	1	4
大気排出量	kg	29	34	35	20	19
外部移動量	kg	1,200	1,500	1,286	1,040	1,207

#### ■環境保全活動

大気、排水、廃棄物などに含まれる環境負荷物質およびPRTR物質の排出・移動量を適切に管理し、問題は発生しませんでした。ただし、2009年度に比べ、エネルギー原単位等が増加しましたが、これは全社建屋統合に伴い、農薬試験室等のデータが加わったためです。なお、一部のデータは測定機関として自ら測定を行いました。

#### ■保安防災活動

いわき地区全社建屋統合後、初めての社内防災訓練を実施し、地震や火災発生時の緊急時に備えました。また(株)クレハいわき事業所の防災訓練にも防災隊として参加しました。

#### ■労働安全衛生活動

潜在災害摘出に取り組み、その内容をリスクアセスメント発表会で紹介するなど積極的に取り組みました。また、局所排気装置の風量測定を重点的に行いました。2010年度休業災害は0件でした。

#### ■顧客満足度向上活動

社内での分析法講習会、メーカーによるインハウスセミナーなどを開催するとともに、外部機関による精度管理事業にも参加し、分析精度の向上に努めました。また、品質事故の防止のため、社内でも相互に監査員を努め、内部監査を実施しました。

#### ■地域交流活動

地元の工業高校、高専、大学の学生を受け入れ、企業体験教育に協力しました。また第8回CSR地域対話集会では「生活環境と人々の健康を守る分析」と題し当社の業務を紹介しました。



農業空中散布 上空



農業空中散布 No1採取地点拡大



精度管理発表会



保安委員会 保護員装着訓練

## レジナス化成株式会社

会社概要	設立年月日	1972年10月18日
	資本金	8,000万円
	売上高(期)	18億9,000万円(2011年3月期)
	従業員数	53人
	本社所在地	東京都中央区日本橋堀留町1-2-10 イトーピア日本橋SAビル
	工場所在地	福島県いわき市錦町堰下66-1
	ホームページ	http://www.kureha-trading.co.jp/
		 代表取締役社長 高山 幸義

### 会社紹介

当社は接着剤の製造販売を事業内容として1972年千葉県松戸市に土木工業向けエポキシ樹脂の加工工場として設立、1994年いわき市に全面移転しました。1999年第2工場の増設を機に電気・電子材料向けに新規展開し、現在は売上の80%を占めるまでになりました。

電気・電子材料用接着剤は、モーターやトランス埋め込み、携帯電話やパソコン・TVゲーム機の各種部品絶縁接着に幅広く使われています。2008年には第3工場を増設し、より高品位の製品製造体制が整いました。

### CSR活動

#### ■保安防災

いわき工場は原料・製品の大部分が危険物に該当し、その取扱管理には細心の注意を払っています。また、全従業員を対象として(株)クレハ保安課などの協力のもと、10月23日を防災の日と定め毎年自主訓練を行っています。

安全な設備選定、日常点検を徹底し、一人一人の防災に対する意識を高めています。

#### パフォーマンスデータ

項 目	単位	2006	2007	2008	2009	2010
エネルギー使用量(原油換算)	kL	298	281	281	409	421
エネルギー原単位(対売上)	kL/百万円	0.23	0.21	0.22	0.29	0.22
二酸化炭素排出量(炭素換算)	トン	120	118	139	203	209
労働災害発生件数	件	0	0	0	0	0
死亡災害発生件数	件	0	0	0	0	0
延べ労働時間	千時間	75	86	84	80	88
休業災害度数率	—	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
休業災害強度率	—	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
設備災害発生件数	件	1	0	0	0	0
廃棄物発生量	トン	75	113	69	38	75
リサイクル量	トン	15	33	14	13	19
リサイクル率	%	23	30	20	35	26
埋立量	トン	60	35	56	25	55
PRTR法届出物質数	件	7	5	5	6	4
大気排出量	kg	2	1	1	1	9
外部移動量	kg	3,779	2,396	1,976	1,828	270

#### ■労働安全衛生

従来から行っていた作業環境測定や化学物質の調査、また、5Sパトロール等を飛躍させ、労働安全衛生の仕組みを構築することに取り組んでいます。年度安全衛生計画を制定し、作業行動のリスクアセスメントについては現状確認、対策、残留リスクの把握等計画に沿って実施しています。

今後も事故のない事業所を目指し、安全衛生に取り組んでまいります。

#### ■製品安全

環境負荷に対する規制として、電気・電子業界の各お客様に対するグリーン調達基準の適応。また、各原材料メーカーに対して特定物質の不使用保証書の取得。法改正に伴う製品MSDSの逐次改訂は的確に対応しています。

#### ■マネジメントシステム

ISO9001、ISO14001は工場業務の運用ツールとして定着しています。これらは従業員全員参加のもとに不具合の再発防止を始め、継続的な改善が行われています。



防災訓練



消火訓練



## Extron 日本エクストロン株式会社

会社概要	設立年月日	1964年8月19日
	資本金	8,500万円
	売上高(期)	13億円(2011年3月期)
	従業員数	50名
	本社所在地	東京都大田区昭和島2-4-4
	ホームページ	http://www.nihonextron.co.jp/



代表取締役社長  
梶田 誠一郎

### 会社紹介

当社は、我国で初めて切削用合成樹脂丸棒素材の製造に成功した会社で、1964年東京都大田区大森西に設立されました。一時は創業の地と埼玉県草加市の2箇所に工場を持ち生産を行っていましたが、2004年に大田区昭和島に移転・統合し現在に至っています。

製品は、切削用合成樹脂素材、切削加工品、成型加工機械および部品で、その生産および販売を行ってきました。設立当初から開発され商品化される様々な合成樹脂の切削用素材の試作・生産を行い、素材分野での開発型企業として常に第一線を歩んできました。取り扱っています合成樹脂は、今では汎用樹脂から各種機能性に優れたエンジニアリングプラスチックまで幅広い材料を手掛けています。

### CSR活動

当社はRC活動に参加してまだ3年目ですが、2002年に品質管理システムのISO9001の認証を取得し、2004年には環境管理システムのISO14001の認証を取得して、この2つのISO規格を基に品質向上ならびに環境保全活動に取り組む中で基本的な活動を行って来ました。

また、クレハ・パワーファイブ活動に参加した結果、大田区産業

振興協会主催の「人に優しい・まちに優しい『優工場』」の認定を受けました。今年度以降も、地域に密着し幅広く世界に貢献できるよう活動を継続して行きます。

#### ■品質向上への取り組み

トレーサビリティの向上と物流の効率化を目的に業界初のバーコードによる在庫出荷管理システムを導入しました。品質と顧客満足度の向上に継続して取り組みます。

#### ■環境保全に対する取り組み

省エネの推進と廃棄物の削減をISO14001の年度目標として掲げ継続的に取り組んで来ました。また、地域社会への貢献として、工場のある工業団地の環境美化活動に積極的に参加しています。

#### ■環境に優しい商品の提供

当社の切削用素材から加工した部品類が、太陽光発電、燃料電池やエコカー等のグリーン商品に多く使用され始めました。引き続き品質管理の継続的改善と新たなエコ材料の提供を努めています。

《商品例》

海洋ブイ容器(資料提供:独立行政法人海洋研究開発機構)  
独立行政法人海洋研究開発機構が開発し、地球温暖化監視に設置されているm-Tritonブイに採用されています。容器は、当社の成型品および加工技術で製作しています。軽量化&海中生物が付着し難くかつ剥がれ易い、地球環境に優しい商品です。



POM製電装容器



m-Tritonブイ (全体)



m-Tritonブイ (海面下部分)

#### パフォーマンスデータ

項 目	単位	2006	2007	2008	2009	2010
エネルギー使用量(原油換算)	kL	567	601	572	430	555
エネルギー原単位(対売上)	kL/百万円	0.40	0.39	0.43	0.42	0.41
二酸化炭素排出量(炭素換算)	トン	268	288	249	209	212
労働災害発生件数	件	0	0	0	0	0
死亡災害発生件数	件	0	0	0	0	0
延べ労働時間	千時間	92	96	99	97	97
休業災害度数率	—	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
休業災害強度率	—	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
設備災害発生件数	件	0	0	0	1	0
廃棄物発生量	トン			99	68	94
リサイクル量	トン			68	65	90
リサイクル率	%			69	95	95
埋立量	トン			31	3	4

## Krehalon Industrie B.V.

会社概要	設立年月日	1973年10月1日
	資本金	272万2,000ユーロ
	売上高(期)	3,982万5,000ユーロ(2010年12月期)
	従業員数	201名
	本社所在地	Londenstraat 10, P.O.Box 414. 7400 AK Deventer, The Netherlands
	ホームページ	http://www.krehalon.nl/



President  
Henk Boersma

### 会社紹介

当社は、1973年に(株)クレハが出資してオランダ国ディベンター市に設立した会社です。その後、(株)クレハの100%子会社で欧州統括会社のKureha Europe B.V.が全ての株式を譲り受け、ヨーロッパにおけるクレハロン事業の中核会社として現在に至っています。押出成型により、EVOH樹脂(エチレン・ビニルアルコール共重合体)を芯層とした多層収縮フィルムと、クレハロン(塩化ビニリデン樹脂)およびナイロンケーシングフィルムを製造販売しています。当社の特色はフィルムやバッグの多色印刷を内製化している点にあり、お客様からの多様なパッケージデザインの要求に応えることにより、事業の成長に貢献しています。自動包装システム向けの多層収縮フィルムは、収縮バッグと比較してお客様のプラスチック使用量削減に寄与し、サステナビリティに貢献する製品です。



Krehalon Industrie B.V.

#### パフォーマンスデータ

項 目	単位	2006	2007	2008	2009	2010
エネルギー使用量(原油換算)	kL					4,045
エネルギー原単位(対売上)	kL/百万円					102
二酸化炭素排出量(炭素換算)	トン					6,525
労働災害発生件数	件	7	6	3	2	7
死亡災害発生件数	件	0	0	0	0	0
延べ労働時間	千時間	355	360	365	349	360
休業災害度数率	—	19.7	16.9	8.22	5.73	19.5
休業災害強度率	—	0.05	0.23	0.12	0.16	0.31
設備災害発生件数	件	13	7	7	4	10
廃棄物発生量	トン	1,569	1,640	1,662	1,566	1,758
リサイクル量	トン	1,233	1,322	1,321	1,255	1,732
リサイクル率	%	87	81	79	80	99
埋立量	トン	336	318	341	311	26

### RC活動

当社は1998年に品質管理システムのISO9001の認証を取得し、2000年には環境管理システムの国際規格であるISO14001の認証を取得しました。当社のRC活動は、この2つのISO規格を基に品質向上ならびに環境保全活動に取り組む中で、基本的な活動を行っています。

また、毎年の事業活動のPDCAサイクルに基づきレビューするため、“YEAR PLAN”を定め、この中で、品質管理、環境保全、安全衛生管理の具体的な活動、目標、責任者を定め、各種プロジェクトの進捗を毎四半期にレビューすることを通じて、活動の推進を図っています。具体例を挙げると、2011年は日本の労働安全衛生法に該当する職場環境に係る法律de Arboretwが推奨するARBO catalogue(雇用者と従業員の協議を通じた職場環境の安全衛生水準に関する基準書)の制定に取り組んでいます。この活動の中で、設備、工程、その他の労働環境に潜在する労働災害や騒音等のリスクアセスメントを行い、労働安全の維持と向上のための管理ツール作りを進めています。

ARBO catalogue: オランダ労働省のウェブサイトから引用  
URLhttp://www.arboportaal.nl/onderwerpen/arboretw--en--regelgeving/arboretw/arbocatalogi.html



クレハロンFSフィルム



リサイクル用プラスチック梱包機



上海呉羽化学有限公司

会社概要

設立年月日

2003年4月30日

資本金

8,400千ドル

売上高(期)

120百万元(2010年12月期)

従業員数


86人(2010年12月末現在)

本社所在地

中国上海市嘉定工業区興業路1585号

ホームページ

http://www.kureha.sh/



董事・総経理  
岩本 茂樹

Kureha Advanced Materials LLC.

会社概要

設立年月日

2007年1月1日

資本金

490.2千ドル

売上高(期)

3,753千ドル(2010年12月期)

従業員数

13名

本社所在地

10 Acee Drive, Highlands Industrial Park,  
Natrona Heights, PA 15065, U.S.A.

ホームページ

http://www.kamtl.com/ http://www.kureha.com/



President  
Fred Daniel

**会社概要**

当社は2003年に、中国上海市嘉定区に設立されました。第一期として世界最大級の焼成炉を設置し、クレカFRの生産工場を立ち上げました。また2005年には、第二期として高温炉断熱材サポートや耐熱・耐薬シール材に使用される炭素繊維合燃系クレカヤーンの生産を開始しました。さらに2008年には第三期として同区に拡大移転し、クレカFRの生産能力の増強を行っています。当社製品は、優れた断熱性、高純度、摩擦・磨耗特性、軽量で高強度などの独自の特性を持った(株)クレハのカーボンファイバーを原料とし、平板、紐状、不織布などに成形加工をし、国内および海外へ販売を行っています。

**RC活動**

当社は2005年度よりRC活動に取り組んでいます。2006年に品質管理システムのISO9001の認証を取得し、2007年に環境管理システムのISO14001の認証を取得しました。今後もこの2つのISO規格に沿って品質向上、環境保全活動に取り組んでまいります。

**■コンプライアンスへの取り組み**

クレハグループの行動基準にそった、コンプライアンス行動基準書を独自に作成し、社員へ啓蒙・教育活動を定期的に実施しています。

パフォーマンスデータ

項目	単位	2006	2007	2008	2009	2010
エネルギー使用量(原油換算)	kL					5,524
エネルギー原単位(対売上)	kL/百万円					46.0
二酸化炭素排出量(炭素換算)	トン					1,119
労働災害発生件数	件					0
死亡災害発生件数	件					0
延べ労働時間	千時間					185
休業災害度数率	—					0
休業災害強度率	—					0.00
設備災害発生件数	件					0
廃棄物発生量	トン					49
リサイクル量	トン					9
リサイクル率	%					18
埋立量	トン					0

**■品質向上への取り組み**

今年度は顧客満足度を引き上げて行くことを目標とし、お客さまからの問い合わせに迅速に対応することを心がけています。商品は(株)クレハ関連事業部で、いわき事業所製品と同等品として取り扱われることから、いわき事業所と同品質とすべく、日頃から管理技術の維持と向上対策を進めています。

**■環境保全に対する取り組み**

先ず第一に関係する国際公約、国家法規を順守することを誓うとともに、環境保全に関する情報入手に積極的に取り組み、より環境に優しい物づくりへの改善に日頃から取り組んでいます。

**■保安防災に対する取り組み**

設備保全、5S活動、防災訓練などを通じて、事故や災害が発生しにくい職場環境形成に努めています。従業員一人一人にとって快適な職場であるかを、自問自答しながら自助改善の精神で取り組んでいます。

《商品例》

当社の主力製品はピッチ系炭素繊維製・成形断熱材クレカFRです。被焼成物に高品質が要求される1,000℃～2,500℃の高温炉の断熱材に使われます。セラミックや金属、LED用サファイヤ焼結、電気自動車向け磁性材料などの熱処理や、太陽光発電パネルや半導体用のシリコン結晶炉、光ファイバー焼結炉に使用されています。



**会社紹介**

当社は、TTSMとして1997年に東洋炭素株式会社により設立されました。2006年4月にKureha America Inc.により買収され、2007年1月1日にKureha Advanced Materials Inc.となりました。

当社はクレハ製の炭素繊維等を原料としてスラリータイプ断熱材(RGS)を製造しています。この断熱材は顧客の要求に応じて、ほとんどのものが精密な寸法に機械加工されて、板、シリンダー、ディスクやその他のさまざまな形状になります。この耐熱材は太陽電池製造産業での多結晶シリコンの製造設備や金属やセラミックスのさまざまな熱処理設備に使われています。

太陽電池産業はアメリカにおいて成長を続けるとともに、RGSに対する需要も増加しています。当社はRGSを提供することで持続可能な社会を支えています。

**RC活動**

今年は当社がRC活動に参加した最初の年です。

**■労働安全衛生**

労働者の安全の確保や安全な職場環境を整備するために、当社は労働安全衛生方針を制定し、継続して活動を実施しています。

パフォーマンスデータ

項目	単位	2006	2007	2008	2009	2010
エネルギー使用量(原油換算)	kL					960
エネルギー原単位(対売上)	kL/百万円					256
二酸化炭素排出量(炭素換算)	トン					430
労働災害発生件数	件	2	1	2	0	4
死亡災害発生件数	件	0	0	0	0	0
延べ労働時間	千時間	23	24	35	21	30
休業災害度数率	—	87.4	42.1	57.2	0.00	135
休業災害強度率	—	0.00	0.42	0.63	0.00	0.13
設備災害発生件数	件	0	0	0	0	0
廃棄物発生量	トン					0
リサイクル量	トン					
リサイクル率	%					
埋立量	トン					

す。労働安全衛生チームがマネジメントを統括し、時間給労働者と毎月ミーティングを行っています。労働者の安全の保証を行う損害保険会社により認定された労働安全衛生チームは安全問題の解決を図り、労働安全衛生の手順書を推奨し、事故報告書をレビューし、職場エリアの調査を行っています。

2007年以来、実施している方針、手続き、設備対策は

- 目の保護: 工場内で保護メガネを着用する
- 防塵マスク: カーボンや黒鉛の粉塵が発生する作業または仕事を行うときは防塵マスクを着用する
- 手の保護: 鋭利な物を取り扱うまたは使う時は手袋を着用する
- 転落防止: 昇降設備の周りの手すりの設置や安全ベルトを着用する
- 施設/作業中の札: 各労働者は鍵を持ち、訓練を受ける
- 閉所作業: 設備や安全な閉所作業のエントリーの訓練の実施

**■品質保証**

当社は顧客の品質要求を満足することと顧客の仕様を上回るように努めています。

品質保証活動はISO9000シリーズをベースとした品質方針をとおして一定水準を達成しています。当社は物質、加工工程や検査/試験の管理体系を品質マネジメントシステムに準じて構築しています。このシステムは顧客に対して製品が当社の管理された品質や環境の中で製造されたという信頼を提供しています。

**品質保証マニュアルで取り組んでいる項目**

品質体系/経営責任、契約見直し、文書管理、購買、製品の識別および、トレーサビリティ、工程管理、検査と試験、品質記録、教育、統計手法、内部監査。

